

りつめい

題字・末川 博名誉総長

立命館大学校友会報

R Alumni

立命館大学校友会

NO.
242

2010
OCTOBER

巻頭インタビュー

京都の
新トップ2人に聞く

Brilliance

輝くひと

74

労使間トラブル防止に大切なのは
現場に足を運ぶこと

北校労働法務事務所

田原 咲世さん(92文、'94院社会)

03 巻頭インタビュー

京都の新トップ2人に聞く

立命館、そして京都から未来へ

京都銀行代表取締役頭取 高崎秀夫 さん

ローム株式会社代表取締役社長 澤村 諭 さん



03

01 輝くひと

田原咲世 さん

08 女性校友アフタヌーン座談会 IN 衣笠

北九州校友会幹事 三宅あきさん

新潟県校友会女性部長 杉崎朋子さん

愛知県校友会事務局スタッフ 大倉昌子さん



08

12 オール立命館校友大会2010 IN 福岡

校友大会九州・沖縄地区開催記念インタビュー

清家邦敏 福岡県校友会会長

13 立命館大学ホームカミングデーレポート

14 校友会長を訪ねて

香川県校友会会長 村上良一 さん

上海校友会会長 久世健一 さん



20

16 校友News

18 校友会ネットワーク

20 スポーツ健康科学部紹介

24 立命館のゼミナール訪問

25 キャンパストピックス

28 学生のスポーツ&イベント

30 INFORMATION

31 編集室から



25



28

表紙の|人|

北桜労働法務事務所
特定社会保険労務士

田原咲世 さん

(’92文、’94院社会)



労使間トラブル防止に大切なのは 現場に足を運ぶこと

強い女性とは、このような人を言うのだろう。凛とした口調で、理路整然と語るさまは正義感をうかがわせる。2児の母親であり、14年間の官僚生活の後、大学の同級生でもある夫が育った北の大地に、北桜労働法務事務所を開設した。「元派遣Gメン」という経歴を持つ異色の人材ビジネスの専門家として、全国を飛び回っている。

大阪府出身。大学院修了後、旧労働省に入職。鹿児島、北海道、霞ヶ関で勤務し、法律の条文や国会答弁の作成などを経験したほか、違法な労働者派遣に対する指導も担当した。いわゆる「派遣切り」など、労使間トラブルが絶えない中、派遣Gメンの管轄はあくまで指導のみ。時に歯がゆさを感じた。「気軽に現場に足を運び、未然にトラブルを防止するためには、法律の専門家になるしかない」。転機は2008年4月だった。

脱官僚に対して、男性からは「もったいない」の声ばかり。「予想通り」だった。「男性は組織に生きるが、女性はネットワークの中で生きていると思う。女性は出産などを機に組織には裏切られることがある。でも、人脈の中では自分の力を活かせる場所が見つけられる」。女性からは独立を激励する声が相次いだという。

労働者派遣の現場を知り、労働施策に関する法律の条文作成を担当した田原さんは、現在は企業へのコンサルティングや講演など、全国各地から引っ張りだこ。講演では法律ができる過程や国会の裏側といった生々しい話と、「大阪人」らしい喋りのうまさ好評を博している。さらに、北海道校友会では2年前に立ち上がった「平成の会」のリーダーとして若手を束ねる。JR札幌駅近くの事務所にはしばしば女性校友が仕事や結婚・育児の相談に訪れている。

労働現場の様々な状況を見てきた田原さんは、後輩世代に、こうエールを送る。「出来るだけ早く社会人になってほしい。働く中で開発される自分の能力や特性もあるし、それで合わないと思えば辞めればいいと思う。社会人としての経験を積まないまま20代を過ごす、その先で社会人になるのは厳しい。だから頑張ってもらいたい」。

何より「人」を尊重する。「哲学者が自分の価値観を大切にするように、世の中の一人ひとりが哲学を持っている。顧客の本当の要求が分からないと、役に立たない情報をご提供しかねないですから」。家では優柔不断な息子の行動にイライラすることもあるという。一方で「それもあの子自身の価値観なのでしょうね」。取材したこの日初めて、母親の顔を覗かせた。

巻頭インタビュー

京都の新トップ2人に聞く



京都銀行
代表取締役頭取

高崎 秀夫

ROOM株式会社
代表取締役社長

澤村 諭



立命館、そして京都から未来へ

今春、京都の優良企業トップに2人の校友が就任した。
高崎秀夫京都銀行代表取締役頭取と、
澤村諭ROOM株式会社代表取締役社長。
いずれも充実した学生生活を過ごしたことに加え、
母校への愛校心も強い。
新進気鋭の両氏にそれぞれインタビューした。



部下が目一杯力を発揮できる組織をめざす

京都銀行 代表取締役頭取

高崎秀夫

さん(’67法)

2010年6月現在、地方銀行の中で預金量6位、近畿地銀トップである京都銀行の新頭取に校友の高崎秀夫氏が就任した。「なが——い、おつきあい」をキャッチフレーズに、顧客を大切に同行の頭取交代は12年ぶり。その背景には、入行以来、こだわりと真心を持って地道に仕事を続けてきた姿がある。

決断力と組織力

6月の頭取就任後、多くの校友の皆様から激励のお言葉を頂戴しました。本当に心強く感じております。正直申しまして、このタイミングで頭取職が引き継がれるとは思っていませんでしたし、自分にその白羽の矢が立つとは夢にも思いませんでしたので、二重の驚きでした。

経営者にとって必要なことは多々ありますが、私はその中で二つのことを重視しています。ひとつは「決断力」。ビジネスには「流れ」がありますから、決断のタイミングを誤れば流れを変えかねません。そして「組織力の向上」も重要です。個人が力を付けることは大事ですが、個人の力量におんぶしている組織は「組織とはいえない」と思うのです。10人の力が結集することで20人、いや30人の力になるよう個々人を束ね、部下が目一杯の力を発揮できるような環境をつくることが私の役割で、これから努力しなければなりません。いくらトップと言っても「立場でモノを言う人間」には、人はついていかないのではないのでしょうか。私は裸の自分を見せて、部下がついてきてくれるような存在をめざします。

なが——い、おつきあいが本分

京都銀行の歴史は1941年に丹和銀行として始まり、51年に京都銀行に行名を変更、その2年後には京都市内に本店を移転しました。

二つのキーワードの「なが——い、おつきあい」(永遠なお取引をいただきたい)と「飾らない銀行」(様々な場面で気さくにご相談いただける)を、テレビCMでご覧になられた方もいらっしゃるかと思います。

「なが——い、おつきあい」のフレーズは、当行の2004年からの広報展開です。担当していただいたコピーライターの仲畑貴志氏が、当行の役員一人ひとりから「どんな銀行にしたいのか」をヒアリングし、それを結集して完成した傑作です。当行ではこのCMの数年前から広域店舗展開に注力していましたので、インパクトにこだわりました。

実は当初、私はこのCMに消極的でした。前頭取の柏原康夫は「やらずして辞めるよりも、やってみて結果を見てから次を考えればいい」と熱っぽく語って、このCMを押したこともあり「それならこれでいきましょう!」ということになりましたが。すると、予想以上の反響があり、当行としては大成功となりました。当初、消極的だったことに対して今は反省しています。

この「なが——い、おつきあい」こそ、地方銀行の、いや金融機関の本分ではないのでしょうか。今の京都銀行があるのは、当行の先輩たちがお客様とのおつきあいを大切にしてきたからこそだと思うのです。京



都には名立たるメーカーが幾つもありますが、当行はこうした企業と創業当初から変わらずにおつきあいさせていただいています。

点から線、そして面の店舗展開に向けて

各メーカーについては小さな町工場の時代を知り、時には倒産寸前の局面もありました。しかし、そういった時だからこそ、地元京都の金融機関として全力で協力してきたつもりです。今でもご縁が続いているのも当時のおつきあいがあったからこそではないでしょうか。日本電産株式会社(本社・京都市)の永守重信社長は「過去の苦しかった時に支援してくれた京都銀行は、これからもずっとメインバンクです」と、言うてくださっています。また、私の妻と娘は京セラ株式会社(本社・京都市)の子会社の販売店の社員から「私たちの会社が今日あるのは京都銀行のお陰です」とご挨拶いただいたこともありました。妻も娘も驚いていましたし、何より、京セラ社本体の社員だけでなく、子会社の販売店の従業員にまでそうした感謝の気持ちを伝えていらっしゃることに真心を感じました。これからもさらに個人のお客様、あるいは事業者を増やしていけるよう、顧客に満足と感動を与え、一方で顧客の声に謙虚に耳を傾け、実情を的確に把握し、ともに知恵を絞り、将来図を描くお手伝いを通じて「信頼」と「安心」を勝ち取れるよう、全身全霊で努めていきたいと思っています。

一方で、各メーカーとのおつきあいは当行の生きる道でもありました。京都は以前からメガバンクが強いエリアで、後発である当行は老舗の呉服店などとおつきあいすることができませんでした。そのため、我々が生きる道は機械や金属などのメーカーだけだったという背景もあります。加えて、こうしたメーカーに焦点を当てたという当行の先輩に先見の明があったのも事実だと考えます。苦楽をともにしてきたご縁が、今の京都銀行を築いてきたのです。

現在、当行では前頭取が掲げた「広域型地方銀行」を経営方針の軸として進めている最中です。「人、モノ、お金」の動きは想像以上に広域化が進んでいます。そのため、それに対応した店舗展開が必要です。当行は近畿2府3県(和歌山を除く)を重要なエリアと捉え、主要なまちに「点」で店を出してきました。店舗数の増加とともに、それが「線」でつながりつつあります。そして、店舗間の相乗効果を生み出していくために、これから「面」展開していく方針です。今ある150の本支店を2011年3月には160本支店にまで拡大する予定です。

各年代に相応した成長が必要

学生時代は広小路キャンパスで過ごしました。そのため、キャンパスが現存しないのは寂しいですね。当時は全国各地から集まった仲間と過ごす毎日が楽しかった。河原町界限で遊ぶのが定番でした。田村悦一先生(立命館大学名誉教授)の行政法に関するゼミに所属していま

したが、当時は1957年の朝日訴訟*などがあり、こうした労働に関する社会問題への関心も高かったですね。在学中は先生のご自宅に呼ばれたり、一緒に登山に行ったりもしました。いずれにしても大学の4年間は充実していました。実は卒業後に意外な場所で田村先生にお会いしました。私は2000年から京都府収用委員会(土地収用法の規定に基づいて置かれている準司法的機能を営む行政委員会。法律、経済、行政に関する経験と知識を有する7人の委員で組織)の委員を務めていますが、田村先生も委員のお一人で、少し照れくさかったですね(笑)。

母校立命館は新しい取り組みに積極的にトライし、立派に成長しています。今後の若手校友の台頭にも大いに期待していますよ。若い時は地道に、そして愚直に仕事能力を高め、年齢を重ねると、指導するポジションに付く者としてふさわしい知識と経験を身に付ける必要があります。そうした具合に、各年代によって求めるニーズ、あるべき姿は変わっていくと思います。

仕事に大切なのはこだわりと真心

スロースターターな私は、テキパキと仕事をこなすというタイプではなかったし、特別優れていた能力があった訳でもありません。けれども、こだわりと真心を持って一つずつ地道にやってきたからこそ、今の自分があるという自負はあります。近年、若い行員を見ると、個性がなくなっていると感じますね。職場内で実施するペーパー試験などは優秀な成績を残していますが、何か物足りない。いわゆる「指示待ちタイプ」が多くなっている気がします。「知っていること」と「できること」は別です。確かに知っているのですが、実務で自分の知識が生かされる場面があっても、それに気づかない。応用力に乏しいと感じます。他の企業の人から同じようなことを聞きますから、おそらく若い世代の共通項なのかもしれません。もっと気概を持って、自分からチャレンジする習慣を身に付けてほしい。真心を持って打ち込めば、必ずいい結果につながるはずです。

これからも京都銀行はお客様にご安心いただける、より健全な銀行をめざし、さらに進化し、より身近に感じていただける飾らない銀行であり続けます。校友の皆様、どうぞ「なが——い、おつきあい」を何卒よろしく願いいたします。

※朝日訴訟…1957年(昭和32年)の日本で、当時国立岡山療養所に入所していた朝日茂氏が厚生大臣を相手取って日本国憲法第25条に規定する「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(生存権)と生活保護法の内容について争った行政訴訟。原告の姓からこう呼ばれる。

Profile

Hideo Takasaki

京都府出身。1967年に立命館大学法学部卒業、京都銀行入行。97年取締役、2001年常務、08年代表取締役専務を経て10年6月に現職。モットーは「至誠天に通ず」。熱狂的な阪神タイガースファン。



難しい仕事で あればあるほど 乗り越えた時の 充実感は大きい

ローム株式会社 代表取締役社長

澤村 諭

さん（75歳 理工）

2010年4月、LSI（半導体集積回路）の大手半導体メーカー・ローム株式会社の創業者であり、本学校友でもある佐藤研一郎氏が名誉会長に退き、同じく校友である澤村諭新社長が2代目を引き継いだ。世界的な半導体メーカーとして成長を続ける同社の次の半世紀に向けて舵を取る新リーダーは、「熱意と責任感」を大切にしている。

経営者としての責任

ロームは、創業者の佐藤が連結売上高3300億円、世界中に2万人を超える従業員を雇用する規模にまで大きくした会社です。それを引き継ぎ、さらに成長させていくという経営者としての責任の大きさを実感しています。

例えば社長に就任した直後に起こったタイの暴動時には、企業のトップがいかにも大変であるかということをあらためて痛感しました。ロームグループにはタイに大規模な生産拠点があり、その他に販売拠点など合わせて4社が事業活動を行っています。当時は、まず現地の従業員ならびに出張者の安全確保を最優先し、さらに、工場の操業から製品の物流、お客様や仕入先の動向、資金の流れに至るまで、あらゆる面で神経を尖らせて事態の推移を冷静に判断し、トップとして指示を出しました。社長に就任早々、本当に良い経験をしたと思っています。

現在のロームは創業から半世紀が過ぎ、社内では次の50年を「NEXT50」と位置づけ、全社一丸となってさらなる発展を目指しています。リーマンショック以降の低迷からも徐々に脱却しつつあり、次世代を見据えた新技術・新製品も成長の芽となるなど、明るい兆しも見えてきていますので、これをエンジンに成長軌道に乗せていきたいと考えています。

壁を乗り越えた時の格別の一杯

仕事ではこれまで何度も「壁」にぶつかりました。しかし難しい仕事であればあるほど、それを乗り越えた時の充実感は大きく、そんな時に仲間と交わす一杯は格別のものでした。

仕事において私の転機は32歳の時であったと思います。当時、当社の営業拠点は京都本社と東京だけだったのですが突然、浜松に営業所を開設することとなり、その責任者に指名されました。と言っても本社から異動したのは私一人だけです。それまで一人の営業マンとして売上げを上げることしか考えていなかったのですが、営業所の責任者として若い社員を採用し、育て、組織としての成果を上げていくという使命が課せられた訳です。「いかに成果を出すか」日々考え、もがいてもなかなか結果が伴わない中で、悩み抜いた挙げ句、大切にしたのは部下とのコミュニケーションでした。何度も何度も部下と話し合い、「ロームの営業はこうあるべきだ」という自分の思いを熱く語りました。話し合いを繰り返すことで熱意が伝わったのでしょうか。次第に部下の意識も変わり、営業所のベクトルが合い、徐々に売上の向上につながっていったのを覚えています。今から思えばマネジメントの基本なのでしょうが、本社から成果を期待され送り出された当時の私にとって、この「壁」を乗り越えた経験は大きかったですね。余談ですが、もちろんその後、部下とは大いに飲みましたよ（笑）。

実はこの浜松での営業所開設の成功が、その後のロームの顧客密着型の営業展開につながっていった訳です。お客様の生の声やご意見を直接お聞きし、それを開発や製造部門にいち早く展開することの重要性を全社で共有できるようになるきっかけだったと思います。

そして今まさに社長としてその考え方を中国にも展開し始めています。発展著しい中国市場での売上げを伸ばすため、沿岸部はもちろんのこと、内陸部まで販売拠点を開設し、顧客密着型営業を推し進めています。当時の浜松での経験は私にはまさに転機であったといえるでしょう。

私にとって仕事とは「自分を成長させてくれるもの」です。難題を一つひとつクリアしながらステップアップするという経験は仕事以外ではなかなか味わえないものだからです。そのために大切なことは「我慢をすること」ではないでしょうか。山登りを例にすれば、やはり頂上まで行ってみないことにはその良さは分からないと思います。登り始めは頂上も見えないでしょうし、途中では木だけしか見えないかもしれません。しかし一步一步どんなに苦しくとも着実に歩いていくことで、頂上に登りつめたときの景色の素晴らしさに感動し、充実感が味わえると思います。今の若い方々にぜひ申し上げたいことは「どんな状況であっても一度決めたら、諦めず我慢して着実に進んでいただきたい」ということです。

社会貢献活動から広がるロームのイメージ

ロームでは、地域の皆様楽しんでいただくため、毎年クリスマスシーズンになると本社周辺の木々を彩るイルミネーションを行っています（写真上）。冬の夜空に温かい雰囲気醸し出すことで、皆様からは大変好評をいただいております、さらに多くの方々にロームという会社のイメージを感じ取っていただければ嬉しいです。

また、新しい技術開発に向けた研究においては産学連携を積極的に行い、立命館をはじめ、同志社、京都大学に「ローム記念館」（写真下）を寄贈し、新たなプロジェクトの具現化を図っています。立命館大学は企業との連携に前向きで、学生が学ぶ場所として最高の環境が整っていると思います。

さらに「音楽を通して豊かな文化を育みたい」という想いから創業者が設立した「財団法人ローム ミュージック ファンデーション」では奨学金援助やコンサート支援など若手音楽家の育成や優れた音楽の普及に向けた活動を展開しています。支援を受けた方の中から世界的なコンクールで優れた成績を収める音楽家が生まれるなど、日本だけではなく世界の音楽文化の発展に貢献しているのではと自負しています。

立命館で育んだ「力」

子どもの頃はエンジニア志望でしたが、学生生活を過ごす中で次第にコミュニケーション能力について意識するようになりました。当時の人事担当者もそれを見抜いたのでしょう。入社後は営業畑を歩んでいきましたね。

学生時代はアルバイトでお金を貯め、日本全国を車でよく旅をしました。

見知らぬ地を訪れ、色々な人に声をかけて見聞を広めることで人とコミュニケーションをする楽しさを覚えたものです。学生になるまで自分にどんな能力があるかなんてなかなか分らないですよ。私は立命館に在学中の4年間、講義だけでなくアルバイトや旅行など色々なことに挑戦することでコミュニケーション力が磨かれ、社会に出る時によくその「力」を客観的に認識し始めたと思います。

私は元々理工系の人間ですが、営業を担当し、コミュニケーション力を活かしてお客様と会話することの方が適していたのだと思います。ロームのお客様はすべてプロのエンジニアですので、お客様の話を聞き、何を望んでいらっしゃるか、どんなLSIを提案すれば満足を得られるかということが、会話を通じてできたように記憶しています。

そうそう、大学のことでひとつ思い出しました。卒業後に恩師の井上和夫先生（現立命館大学名誉教授）に、営業職に配属されたことを報告したのですが、その際、井上先生は驚きの様子もなく「君は営業に向いていると思っていたんや」とおっしゃって下さいました。先生のこの言葉で自分の持ち味を再認識しました。

学生時代とは何にでも挑戦し、自分にどんな能力があるのか、どんな仕事に向いているのかを見つける自分発見の大切な時期なのでしょうね。

教育に望むこと

子どもには魚を与えるのではなく、「魚の釣り方」を教えなければいけません。餌の種類や付け方、竿の長さ、釣りに適した時間や場所があること、また魚によってそれらを変更しなければならないことなど「魚の釣り方」を教えてあげます。教えずに魚を与えてしまうと、やがて彼らは魚を待っているだけで何もできない人間になってしまいます。教育とはそんなものだと思います。

ロームは、企業として「教育訓練基本目標」「教育訓練基本方針」を掲げ、日頃から人材育成に力を入れています。大学もぜひ良い人材を育て、その「人財」を企業に送り出していただきたいと思います。私たちは、その「人財」を大切に企業活動を通じて社会に貢献し、また大学にも支援ができるようにしていきたいと願っています。

最後になりましたが、私自身、大任ではありますが、経営者としてさらに精進して参りますので、校友の皆様におかれましては何卒ご支援のほどよろしくお願いいたします。

Profile

Satoshi Sawamura

京都府出身。1975年に立命館大学理工学部卒業。78年に東洋電具製作所（現ローム）入社。2005年取締役、07年常務、09年代表取締役専務を経て10年4月に現職。モットーは「虚心坦懐」。



オール立命館校友大会2010 IN 福岡 プレ企画

女性校友アフタヌーン座談会

「オール立命館校友大会 2010 IN 福岡」(10月30日)の開催まであと1ヶ月。当日は11時20分より、大会会場のグランド・ハイアット・福岡にて、「女性校友アフタヌーンティーパーティー」の実施が予定されています。グランド・ハイアットの茶菓を楽しみながら、九州を中心として全国から集う校友と懇親いただけるこの企画、女性校友であればどなたでも参加可能です。このパーティーのプレ企画として7月31日(土)、衣笠キャンパスにて校友会活動で活躍されている女性校友3名に、自身と校友会の関わり、女性校友ならではの校友会活動の参加や活用のあり方についてお話をいただく「女性校友アフタヌーン座談会 IN 衣笠」を開きました。仕事とプライベート、そして校友会活動を見事に両立されている皆さんのお話には、大変興味深いポイントが満載。女性はもちろんのこと男性校友の皆様にも大いに参考になりそうです。

IN 衣笠



■女性校友アフタヌーン座談会 IN 衣笠	
【出演者】	
北九州校友会幹事	三宅あきさん('85 文)
新潟県校友会女性部長	杉崎朋子さん('92 文)
愛知県校友会事務局スタッフ	大倉昌子さん('01 法)
【コーディネーター】	
立命館大学校友会広報委員	加藤美佐子さん('77 文)
	高橋英子さん('78 産社)
	山岡祐子さん('83 経済)

写真撮影：小幡 豊氏

始まりは先輩との気さくな付き合いから

加藤 本日は夏の京都にお越しいただき、ありがとうございます。久々にキャンパスに帰って来られ、様々な思いがあると思います。皆さんは忙しい中でも上手に時間を使って、校友会活動にも積極的に参画されており、男性校友に負けない、いやそれ以上のパワーをお持ちで、その力強さに感服です。今日はざっくばらんにお話したいと思います。

早速ですが、皆さんが校友会活動に関わるきっかけは何だったのでしょうか。

三宅 北九州校友会は福岡県校友会の支部であった期間を含めて40年の歴史があります。私は卒業して5年後の1990年に初めて参加しましたが、驚いたことに女性は私だけでした。次は行かないかなあーと一瞬思ったのですが、気さくに声を掛けて下さる先輩ばかりで、意外と居心地が良く、それから楽しくなって引き込

まれていきましたね。

杉崎 私は社会人2年目から新潟県校友会に参加しましたが結婚、出産で一旦、校友会活動は途絶えました。現在2人の子を持つ母親です。その後、職場の上司の校友に誘われ、再度、年次総会に参加したのが9年前。この頃に「女性部」が発足し、そのまま女性部長に就きました。同時期に「青年部」も活動を活性化させ、若い女性校友の参加も増えていきました。校友会は男性というイメージが強かったのですが、意外に女性が多く、驚きました。新潟は校友が少ないですから、どこかで校友に会うなんてほとんどありません。だから、知り合いが校友と知った時の喜びは本当に大きく、立命館の懐かしい話ができるのが校友会の魅力のひとつです。

大倉 私は卒業式で校友会の存在を知りました。式典の挨拶の中で「社会に出て困難な時は校友が守ってくれる」というお言葉を聞き、感動したのを覚えています。その年にひとりで愛知県校友会の年次総会に参加しましたが、第一印象は「これが立命館

ファミリーかぁ!」という驚きです。普段、なかなかお会いできない肩書きの方ばかりでしたので。その会で先輩から「元気がいいからぜひ事務局へ」と誘われたご縁に恵まれ、今に至っています。私は2児の母親ですが、夫も「校友会っていいね」と様々に支えてくれています。現在、育休中ですが、校友会はストレス解消の場になっていますね。私は自分が居る、あるいは居た場所が好きだから、母校の校友会も好きです。

高橋 皆さんに共通しているのは、先輩から声を掛けてもらったことに始まって、現在のように主体的に参画する立場へと変わってこられたということですね。

杉崎 先輩の影響は大きいです。校友会には職場とは別の人間関係があると思います。先輩から半ば強制的に誘われて校友会に参加した校友でも、その後は自発的に顔を出すようになってい

きます。同窓というのは個人同士がつながる、意味のあるきっかけではないでしょうか。今は「パワハラと捉えられかねない」と断念する職域の先輩も多いようですが、断られたら無理強いしなればいいだけのこと。積極的に声を掛けてほしいと思います。私は先輩の声掛けがあったからこそ、人脈が広がったし、それは仕事にも活かされています。

三宅 そうですね。私たちはひとりで来ている人には積極的に声を掛けようと努めています。総会時のテーブルを女性だけで囲むようにしたりする工

夫も。そうした活動が実って、ここ6、7年で女性が増えてきました。今では役員37人のうち、7名が女性です。北九州のこうした成果は、先輩方の「人柄」の影響が大きいと思います。10年間、会長を務められた高藤昌和前会長の頃から「若手が自由に活動できる地盤」が築かれ、10年前に青年部も発足されました。

山岡 皆さんより前の世代の女性の校友会参加は本当に少ないと思います。良い先輩に恵まれたことが大きいですね。そして、皆さんはそれぞれの校友会における女性参加の先駆者ですね。

三宅 青年部発足以降、北九州校友会では窓口を男性と女性で分けました。もちろん、女性窓口は私なんです(笑)。その方が



杉崎朋子 さん 1992年文学部卒
新潟県校友会女性部長
BSN新潟放送 編成部次長
趣味：着物の着付、アルゼンチンタンゴ
座右の銘：やらずに後悔するより、やって後悔しよう

女性は連絡しやすいかな、と。それが見事に当たって、女性からの電話が増えました。メールの普及も若手参加の後押しになっていますね。

ライフステージに合わせた活動を

加藤 校友会に参加する女性には確かに増えていますが、地域によっては女性の参加がほとんどない、あるいは男性を含めて校友自体が集まらないなどの課題を抱える校友会が多いという実情もあります。

大倉 校友会活動は時間の融通が利く人は足を運べますが、それ以外の人の参加はなかなか難しいですね。愛知県も女性が活躍し始めてからまだ5年ほどしか経っていません。「青年部」という若手の集まりの意味は大きいのですが、それと本体とに見えない壁があれば活性化しないですね。若い女性もずっと若手という意識ではいけないと思います。いずれ若手ではなくなる訳ですから、いつもどこかで自分なりに校友会に貢献したいという気持ちが大切だと思うのです。

杉崎 新潟は縦に長いという地理的要素があり、新潟市内以外の人は参加しにくいという課題があります。また、新潟県校友会は本体のほか、青年部、女性部がありますが、参加できる人はどれでもいいから参加して、と大風呂敷を広げるぐらいでいいと思います。人それぞれのライフステージがある訳ですから。特に女性は家を空けて出て行くのはそう簡単でないと思うので、選んで参加していただける環境が大事ではないでしょうか。

三宅 北九州の最大の特徴は



三宅あき さん 1985年文学部卒
北九州校友会幹事
毎日新聞西部本社 調査相談室
趣味：旅行、クイズ
座右の銘：継続は力なり



大倉昌子 さん 2001年法学部卒
愛知県校友会事務局スタッフ
デンソーテクノシステム機器 2部リーダー
趣味：お茶、お花、着物の着付、英会話
座右の銘：一期一会

仲が良いこと。初めて参加する人からの問い合わせでも、そこを強調しています。仕事でつながっていないから、職場で話せない悩みも言えて、聞いてもらえる場所にもなっています。決して、総会だけ集まるのではなく、友達感覚で温泉や旅行に行くこともあります。私は今の校友会のかたちに満足していますし、今のスタッフもこうした雰囲気を入っているようです。



衣笠キャンパスを散策し、当日に開催されていた立命館大学オープンキャンパスのアンケートに答える女性校友たち

私はそうではなく、校友会という集まりを通じて誰もが自分たちができる範囲でやりたいことをやりたい時にやって、参加した人の喜びになれば、そして、その喜びが校友会の活性化につながればいいと思うのです。

高橋 総会だけ、と考えている人は確かに多いですね。これまで女性校友は、受付という役割としての存在意義が強かったのかもしれませんが。そういったしがらみを越えた会があってもいいと思いますね。

活動の原動力は先輩の後押し

大倉 2009年には岐阜県校友会の房野麻紀子事務局長と協力して、男性社会の“逆”の活動をコンセプトにした「大人女子部」

を立ち上げました。大人の女性の様々な面に特化した企画を展開し、細く長く続けたいと考えています。将来的に「ベビーカーの貸し合いができてもいいんじゃない？」なんて考えたりしながら。校友というだけで、初対面でも親近感がある訳ですから、それを活かした呼びかけ、あるいは活動ができるはずです。無理しない程度に集まれる人が集まって、それでいいと思うんです。愛知県校友会の林幸雄会長は「思い立ったら、まず行動することが大事」と後押ししてくれます。この支えが原動力になります。

高橋 校友会において女性校友は、それぞれの領域では活発に活動されていますが、それが校友会全体への広がりには必ずしもつながっていないように思います。みんなで束になって何かできないものでしょうか。

杉崎 各校友会幹部の意識改革って大切かもしれませんよね。若い人が何かやろうとしても上層部の壁があって行動を起こせないという校友会もあると思います。新潟県校友会は若い世代も生き生きと校友会活動に参加していますが、この雰囲気を築いたのが小野守通会長です。この座談会はたまたま若手の活動が盛んな県のメンバーが集まっていますが、全体を見ると活動が停滞している校友会もあります。そうした会の環境改善も急務だと思います。

三宅 地域によって校友の数が違うなどの問題があり、集まるだけで大変という場所もありますが、それ以前に校友会の「敷居」を下げる努力が必要だと思います。私は先輩世代が気さくに接してくれたので、女性がひとりでもずっと気楽に参加していました。とにかく、つながることから始めるのが大切なのではないでしょうか。

山岡 本当に皆さん、たくましい。自由な発想で、のびのびと校友会活動に取り組んでいる印象があります。校友会で一生のつながりを築いていらっしゃるんですね。

高橋英子 さん(左) 1978年産業社会学部卒
立命館大学校友会広報委員
旅行ジャーナリスト、
(財)大阪21世紀協会
チーフプロデューサー
趣味：フラメンコ
座右の銘：que sera sera
(ケセラセラ)



山岡祐子 さん(中央) 1983年経済学部卒
立命館大学校友会広報委員
株式会社白川書院
代表取締役・編集長
趣味：京都の観光や祭事の探求
座右の銘：互いに重荷を負い合いなさい

加藤美佐子 さん(右) 1977年文学部卒
立命館大学校友会広報委員
イベントプロデューサー
趣味：登山
座右の銘：多く生きる



続きは「アフタヌーンティーパーティー」で！ もっと色んなお話をしましょう！

加藤 活発な意見交換が続いていますが、そろそろ終了の時間が近づいてきました。最後に後輩世代に向けてのメッセージをお願いします。

大倉 校友というつながりは宝物です。お金では買えない。そして、参加することも大事ですが、若い人が上の世代とつながろうとすることも大切だと思います。先輩たちが築いてきた社会的評価によって今の立命館がある訳ですから。まだ、校友会活動に参加したことがない、という皆さん、最初の一步が怖いと思うかもしれませんが、決してそんなことはありません！私はもともと立命好きでしたが、校友会に関わるようになってもっと好きになりました。卒業後に帰る場所があるというのは本当にいいと思います。

杉崎 新潟では青年部でカップルが誕生し、今夏に結婚するなど、校友会は色んな意味で価値のある場になっています。年次総会は昼から夜までで、拘束時間も長くなりますが、女性部はちょっとしたテーマを設けて昼に集まって、俳句講座や三味線鑑賞のほか、お茶やケーキなども楽しんでいます。若い方もたくさん参加していますよ。職場や家庭では言えないような話ができる場でもあります。立命から生まれた女性のつながりを私は大切にしています。「さあ集まるぞ！乾杯！」みたいな雰囲気はない、お気軽な会

ですよ。
三宅 今年は校友会史上初めて、校友大会が九州で開催されます。北九州の校友はもちろん、九州全体、あるいは全国の皆さんも一堂に会してグランド・ハイアット・福岡の豪華なお料理をいただきますよ！女性校友のための「アフタヌーンティーパーティー」もありますので、美味しいスイーツを食べながら色んなお話をしましょう。
加藤 本日は皆さん、ありがとうございました。この続きは、三宅さんがおっしゃった通り10月30日(土)の「オール立命館校友大会2010 IN 福岡」の企画「アフタヌーンティーパーティー」でお話いただきたいと思います。参加無料ですので、多数の女性校友の皆さまのご参加をお待ちしております。



R オール立命館校友大会2010 IN 福岡

校友会史上初めての九州・沖縄開催となる「オール立命館校友大会2010 IN 福岡」まで、あと1カ月となりました。九州・沖縄地区の各校友会のメンバーたちで構成する実行委員の皆様も大会の成功に向けて機運が盛り上がっています。今大会の開催を記念し、九州・沖縄地区のリーダー的存在である清家邦敏福岡県校友会会長にインタビューしました。

日時：10月30日(土) 13時～17時 会場：キャナルシティ博多内 グランド・ハイアット・福岡

主催：立命館大学校友会、福岡県校友会、北九州校友会、佐賀県校友会、長崎県校友会、熊本県校友会、大分県校友会、宮崎県校友会、鹿児島県校友会、沖縄県校友会
共催：立命館大学、立命館アジア太平洋大学

校友大会九州・沖縄地区開催記念インタビュー

清家邦敏福岡県校友会会長

念願の校友大会初開催は九州・沖縄の魅力を伝えるチャンス

いよいよ念願が叶う、そんな心境です。というのも、実現こそしませんでした。校友大会の九州開催案は約20年前に一度浮上していたのです。今では東京や名古屋で開催するなど、京都以外での開催も珍しくありませんが、当時はとても斬新なアイデアでしたよね。それぐらい、九州地方には活力があったのだと思います。それに向けて「九州連合会」のような集まりも誕生しました。

この九州連合会を母体に、九州地方では毎年「九州ブロック会議」を開催しています。この会議は、九州地方の各校友会の会長はじめ事務局スタッフが集まり、各県が抱えている課題などについて議論しながら、各校友会の発展につなげるものです。「営業会議」といわれるほど、真剣な議論を展開しています。この会の中心となっていたのが故日下部茂福岡県校友会前会長です。九州地方の「まとまり」を最重要視して、日下部前会長がうまくまとめられていました。そのため、校友大会の九州・沖縄地区開催は、日下部前会長をはじめ、当時関わっていた人が築いた結束力が引き継がれているからこそ、実現したものだと思います。振り返ると感慨深いですね。

今年の校友大会はユニークな大会になるでしょう。会場のキャナルシティ博多は若者で活気付くエリアで、駅から徒歩

20分、タクシーで6分の所にあります。建物も個性的で、これまでとはまったく違った雰囲気の校友大会になると思いますよ。また、2011

年春には九州新幹線が博多まで全面開業される予定で、九州への注目も一段と高まります。博多のまちも新しい展開を迎えています。その直前の時期に、全国の校友の皆様博多というまちを知っていただけるのは大きなチャンスだと思っています。さらに、近年の交通網の発達で、韓国や中国も近くなりました。これを機会に海外の校友の皆さまにもご参加いただきたいです。

大会まであと1カ月。初の九州大会の成功に向けて、九州・沖縄地区の各校友会のメンバーなどで構成されている実行委員会も活気付いていますよ。9校友会で協力しながら一人でも多くの校友に来ていただけるよう、参加を呼びかけています。皆さんに満足していただけるよう、校友大会の成功に向けて、微力ながら力を尽くしたいです。



校友大会企画内容の変更について お知らせ

前回の会報「りつめい」241号において、第2部PartⅡプレミアムトークセッションへの日本相撲協会理事・貴乃花光司氏の出演をご紹介しておりましたが、諸般の事情により同氏の出演については中止となりました。

つきましては、プレミアムトークセッション実施を取りやめ、第3部レセプションパーティーの開始時刻を当初予定より繰り上げるなど、企画内容を変更しております。

大会の詳細につきましては、今回の会報に同封しております「オール立命館校友大会2010 IN 福岡」パンフレットをご確認ください。



立命館大学ホームカミングデー開催レポート

久々の母校、胸いっぱい

前号でも紹介した「立命館大学ホームカミングデー」(6月6日開催)は衣笠キャンパスに7000名、びわこ・くさつキャンパス(BKC)に6000名の校友、その家族、父母、在学生、一般の方々が来場する大盛況のイベントとなりました。109の企業、団体(校友会含む)、校友の皆様からご協賛いただいたこともあり、福引抽選会が大賑わいをみせるなど、イベントは一層の盛り上がりを見せていました。ご協力いただきました皆様には深く感謝申し上げます。

当日は校友の芸能人や在学生グループによるステージおよび講演会や、14学部・研究科が実施した計29種類の企画に加えて、本学の教育研究資源を活かした「白川静生誕100周年記念企画」や国際平和ミュージアムの特別展示、地域交流型イベント、14都道府県校友会などの出店で賑わったブースなど、魅力がぎっしり詰まったイベントとなりました。また、立命館大学校友会が実施した、卒業後10・20・30・40・50・60周年の校友を対象にした「アニバーサリープロジェクト」では、1073名の対象者に記念品をプレゼントしました。



来場者対象のアンケートでは「久々の母校を訪れ、嬉しさと目新しさの両方に胸いっぱいになった」「友人と30年ぶりに会えて嬉しかった」といった校友の喜びの声のほか、父母や地域の人からは「卒

業生の方々の母校への思い入れの強さに感動した」「在学生も丁寧で、良い環境という印象を持った」などと感想が寄せられていました。さらに「これからも卒業生と家族が学内で楽しめる機会を増やしてほしい」というリクエストもありました。

当日は、売り上げの一部が立命館学園に寄付される記念グッズも販売され、818名もの方々がご購入されました。



ホームカミングデー広報委員レポート

ホームカミングデーは来訪者約13000名を数える大盛況のイベントとなりました。前日に学部同窓会、ゼミ同窓会、地方校友会の集い、サークルOB会の集いなどを催した団体もあり、参集した校友が大いに盛り上がり、翌日には両キャンパスに夫々別れてホームカミングデーを楽しんでおられました。久しぶりに衣笠キャンパス、そしてBKCを初めて訪れた広小路、衣笠世代の校友にとって、衣笠キャンパスの変貌ぶりとBKCを概観し、母校の発展を印象付けられたようです。

衣笠キャンパス、およびBKCでは地方校友会のブース・出店、広小路キャンパス展、各学部・研究科同窓会企画として特別講義、特別講演、作品・研究展示、在校生との交流、懇親会、ゼミ同窓会、特設ステージでの企画、出身有名人等による講演及び出演、一般参加イベント、オープンカレッジなど盛り沢山の内容でありました。ホームカミングデーの求心力は可成のようで2日間の開催を希望する声もあり、次回開催を云々する声も散見されました。



私は午前中に衣笠キャンパスを巡回、正午すぎにBKCに移動。BKC特設ステージでの企画としてRUSH(現役ジャズオーケストラ)とOLD RUSH(OBジャズオーケストラ)のジョイントライブ(1st)に共演し、短時間ではありましたが、当部の歴史に残るであろう、栄えあるステージに世代を超えた現役、OBの共演、そして交流が繰り広げられ、「立命館大学に現役JAZZCLUBあり」「意気軒昂の立命館大学軽音楽部OBあり」と来訪者に強く印象付けていたと思います。今後の現役OB・OGとの交流の動機付けとなり恒例のイベントになることを期待しております。

報告者：仲治寛氏(立命館大学校友会広報委員、軽音楽部(JAZZCLUB)OB会IT委員)

香川県

香川県校友会会長

村上 良一さん（'58法）
2000年6月就任



昨年、新聞社の企画で陰山教授（右）と村上会長との対談が実現し、お二人がともに掲げる「早寝、早起き、朝ごはん」など、子どもの生活習慣についての意見交換も行われた。



学生時代、友人たちと旅行先にて（後列左端が村上会長）。



近年、上海校友会は盛り上がりを見せている。



京都大学、同志社大学、立命館大学の校友が上海に集結した今出川会のオープニングの様子。

上海

上海校友会会長

久世 健一さん（'77理工）
2009年7月就任



久世会長

学生生活の思い出を教えてください。

村上 ● 学業以外では色々なアルバイトをしたことが思い出深いです。中でも、大学で使う教科書用の参考書を作って販売するビジネスを構築したことが印象に残っていますね。ピーク時は人を雇って商売するほどにも成長しました。私は中学、高校、大学の10年間を立命館で過ごしましたから、立命館はもちろん、校歌や応援歌も大好きです。また、立命館の厳格な校風も好んでおり、いくら優良企業の内定を得ていようと卒業条件に満たなければ容赦なく卒業させないという、毅然としたところも魅力でした。卒業後は京都で電気店を創業したり、仙台で八百屋の新しいビジネスモデルを構築するなどしましたが、商売は何をやっても当たりましたね。特に儲けようとは思わず「人が喜んでくれることをやろう」ということだけを考えていました。現在は義父が経営していた高松高等予備校の理事長として、予備校生と向き合っていますが、そこではわが子のように接することを大切にしています。当校には寮もあり、校舎内には予備校が運営する診療所も置いています。その原点は商売と同じように、子どもが喜ぶ環境をつくり、全員を希望の進路に合格させ

たいという思いに尽きます。そのため、30年以上前から「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣（2009年度の総会で、ゲストに陰山英男立命館大学教授・立命館小学校副校長を招聘し、陰山持論を拝聴）を徹底してきました。お陰様で今年は国公立医学部に83名が合格するなど、大半が希望する進路へと進んでいます。校友会も「校友が喜ぶ場所であること」が最も大切だと思います。利害関係がなく、学生時代に戻って付き合えるのが校友会の魅力だと思うのです。

活動休止状態だった香川県校友会を先頭に立って再建されました。

村上 ● 私が高松に来た頃は「香立会（こうりゅうかい＝建設会香川支部）」のみが何とか活動しているぐらいで、長く香川県校友会は休眠状態でした。そんな中、2000年を迎える頃から仕事で周囲の校友とつながりが強くなりつつあり、再建の機運が高まってきました。そして、メンバー約10名で手分けして声を掛けて回り、名簿作りからスタート。再建を求める人のために何とかしたかったのです。

後輩の就職もそうですが、校友会を知っているのと、そうでないのでは大違いです。企業などに対して、出来るだけ校友を採用してほしいとお願いして回ったこともありましたよ。そうした支援を、利害関係なくできるところが校友会の特長ではないでしょうか。校友というだけで、親しみが出てくるのです。

今、香川県校友会は活気づいていますね。

村上 ● 再建当初は100名の総会参加者を目指し、そのために日ごろから校友の悩み相談

や、学生の就職相談など、幅広い活動を展開してきました。それが功を奏したのか、ここ数年は130名前後が集まるようになりました。また、母校や県内の情報を月2回程度、会員130名にメール配信するサービスに加え、去年は琴平の讃岐うどんの名店「中野屋」（校友の父親が経営）でのうどん打ち体験といった香川県の地域性を活かした企画も行われるようになりました。

さらに、立命館創立者の中川小十郎先生のご子息で、立命館慶祥中学校・高等学校にも作品を寄贈された、世界的に活躍する彫刻家・流政之氏は香川県在住ですが、一般公開されていない流氏のアトリエ見学会も昨年、実現しました。これらは校友という“特権”があるからこそ企画です。こうした企画をこれからも盛んに行い、皆さまの喜びにつながる校友会へと発展させたいです。

<http://www2.ocn.ne.jp/%7Exue/>



村上会長

どのような学生生活を過ごしましたか。

久世 ● 多くの友人に恵まれたことが一番の収穫です。勉強への意識も高く、充実した学生生活だったと思います。学生時代の友人とは、今でも同窓会で会うなどしていますね。一方で、麻雀や植物の写真撮影など、趣味にも打ち込んだ4年間だったと思います。中でも、山野草に興味を持ち、アルバイトで貯めたお金で買った高級一眼レフカメラで山野草を撮影するのも好きでした。衣笠キャンパスは京都の観光地や自然も近く、今でも衣笠山や等持院の風景がふと思い浮かぶこともありますね。

4回生になる直前には今でも忘れられない出来事がありました。3回生の後期試験を終え、友人たちと徹夜で遊んで別れた後に突然、急性胃炎で倒れました。この時に「ものが食べられない怖さ」を思い知り、以降「食べること」に対する価値観が変わりましたね。強く印象に残っていますので、大学時代を振り返ると、この病気のことが真っ先に思い出されますよ（笑）。

6年前に仕事で赴任した上海。どのような街ですか。

久世 ● 卒業後、社会に出て、商社に勤務してきた訳ですが、これまで大きな川に流されるようにクアラルンプール、アメリカ、バンコク、広州、そして上海と、日本の駐在者が多い海外の地に赴任してきました。上海は日本でいうと大阪に近い印象です。中国最大の商業都市で何でもそろう街。しかも、もの凄いスピードで発展しています。また、歴史的に古い上海はノスタルジック、あるいはロマンチックな雰囲気漂い、良いところもたくさんあります。

実は上海校友会の存在を知ったのは「偶然」

なんです。しかし、そこには2つの縁が潜んでいました。ある意味必然だったのでしょうか。数年前、大阪から乗った上海行きの飛行機で初めて会った隣席の女性と話す中で、お互い立命館出身ということで話が盛り上がったのですが、その人から上海に校友会があることを聞きました。しかも、その後に知ったことですが、上海校友会を立ち上げに尽力したのは中学時代の同級生だったのです。驚きとともに、これも何かの縁だと思いましたね。そうこうするうちに活動に関わるようになりました。

会長ご就任から1年。上海校友会の現状について教えてください。

久世 ● 参加し始めた当初は、正直申しまして活気がない印象でした。私は上海にある「京都市人会」という集まりにも参加していましたので、他大学の校友から話を聞く中で、もっと上海校友会を盛り上げなければならないという使命感が芽生えてきました。「自分にこんなに母校愛があったのか」と驚きましたよ（笑）。以降、協力を呼び掛けて集まった12人のメンバーで校友会組織を再編し、既存のゴルフやグルメ会、ビジネス交流部など新しいサークルも立ち上がってきました。少しずつですが、活気が出てきたと思います。

さらに今年7月には、上海在住の京都、同志社、立命館の3大学校友が合同で集まる「今出川会」を企画、開催しました。元々「今出川ゴルフ会」を実施していることもあり、両大学校友会の会長も大賛成でした。全体で約220名、立命館校友だけで80名が集まる大盛況の会でした。こうした、皆さんの喜びにこれからも貢献していきたいですね。会長に就任したからにはもちろん腹をくっっています。有志の集まりとはい

え、ひとつの組織として発展させたい思いがありますから、衰退することなく、この先も続いていくような強い組織をつくりたいです。そして、これからは海外の校友がさらに増えるでしょうから、上海から世界の校友が輪になるような仕掛けもつくってみたい。校友会は色んな人が、それぞれの価値観を持って集まる場で良いと思うのです。大切なのは校友と学園の両方に役立てるような組織にすることではないでしょうか。

<http://alumni.ritsumei.jp/shanghai/>

上海校友会

設立：2002年
会員数：約170名（2010年9月現在）
総会時期：2010年は4月に実施
2010年総会参加者数：44名



校友で落語家の桂都丸師匠が4代目「桂塩鯛」を襲名しました。

立命館大学落語研究会出身の落語家・桂都丸師匠が8月6日（金）、4代目「桂塩鯛」を襲名した。「塩鯛」は上方落語界の由緒ある名跡で3代目の没後、67年ぶりに復活。同日を皮切りに現在、襲名披露公演を展開しており、2011年2月19日（土）の南座公演が千秋楽となる。

今回の「塩鯛」襲名を記念して、7月1日（木）に立命館大学校友会からエンジ色のオリジナル座布団を贈呈。同じく校友の落語家である桂小春団治師匠も4代目のお祝いに掛けつけた。

「誰でもなれる訳ではない『塩鯛』に選んでいただいたことに感謝しています。この伝統ある名跡の重みを感じながら『都丸』以上に大きくなるよう、



■ 立命館大学校友会のオリジナル座布団を手に笑顔の4代目桂塩鯛師匠（右）と桂小春団治師匠。

精進していきたい」と都丸改め塩鯛師匠は抱負を語り、さらに「立命館大学落語研究会に入部しなければ、今の自分はありません。いつも全国の校友の皆さまに温かく支えていただいているので、とてもありがたく思っています。これからもご声援をお願いします」と感謝の言葉を述べていた。

■ 桂塩鯛師匠の襲名披露公演のスケジュールはこちら（10月以降）

日 程	会場名	都道府県
2010年 10月	1日（金） 奈良県文化会館国際ホール	奈良県
	2日（土） さん太ホール	岡山県
	5日（火） アステールプラザ大ホール	広島県
	6日（水） 宮津会館	京都府
	17日（日） 日経ホール	東京都
	24日（日） 大津市民会館大ホール	滋賀県
	30日（土） エルガーラ大ホール	福岡県
11月	31日（日） 兵庫県立芸術文化センター阪急中ホール	兵庫県
	6日（土） 茨木市クリエイティブセンターホール	大阪府
	17日（水） 長岡京記念文化会館	京都府
	20日（土） 池田市民文化会館アゼリア小ホール	大阪府
12月	30日（火） 松山市総合コミュニティセンター・キャメリアホール	愛媛県
	9日（木） 麻生市民会館	神奈川県
	12日（日） 赤穂ハーモニーホール大ホール	兵庫県
2011年 1月	9日（日） 広島県民文化センターふくやま	広島県
	10日（月） 近江八幡市文化会館	滋賀県
	29日（土） 豊田市民文化会館小ホール	愛知県
2月	4日（金） 箕面メイプルホール	大阪府
	11日（金） 赤とんぼ文化ホール	兵庫県
	19日（土） 南座	京都府

桂塩鯛師匠のホームページは <http://www.shiodai.com/> をご覧ください。

元メジャーリーガーで校友の長谷川滋利さん（'91 経営）が「第21回Rits不動産ネットワーク例会」で講演されました。

8月10日（火）18時30分から、京都タワーホテル9階「飛雲の間」において「第21回Rits不動産ネットワーク例会」が開催され、元メジャーリーガーで野球解説者の長谷川滋利さんがゲスト出演。76名の校友が集まった。現在、米国を拠点に活動する長谷川さんは現役時代の米国での生活や、ご自身の大学時代の話、イチロー選手や野茂英雄選手といった日本人大リーガーに関するエピソードのほか、ご自身が考えているビジネスの方向性など、多彩な話題についてユーモアを交えながら話され、最後は「メジャーに挑戦した時、自分には大きな力はないと感じた。だから、アジャスト（調整）力が必要と考え、英語を必死にマスターした。アジャスト力は自分の強みだと思う。将来は『立命館』というグループで力を合わせて、何かやってみたいですね」と呼び掛けて締めくくった。



■ ユーモアを交えながら講演する長谷川さん。

「リコネクト」のイベントが各地で行われました。

立命館大学校友会本部が複数の都道府県校友会と相互に連携し、各都道府県校友会への若手校友の参画を促すことなどを目的にしている「リコネクト」（若手校友活性化事業の愛称）のイベントが東海、および関西の両地区で開催された。

東 海



■ 名城変電所を見学する参加者たち。

7月10日（土）に名古屋城の地下に位置している「中部電力株式会社名城変電所」の見学イベントがリコネクト東海の事業として行われ、20、30代の校友を中心に約40名が参加した。このイベントは東海地区の20代を中心とする若手校友が、先輩校友が活躍する企業などの施設や工場を見学することで、教養を深める目的で企画。愛知県校友会や中部電力株式会社関係者の協力により実現した。

名城変電所は地下30m、5階建ての構造。見学イベントでは発電所の送電ケーブルを通す1.5km以上続くトンネルのほか主要変圧器や制御室といった最新の機器の見学が行われ、参加者は熱い視線を送っていた。



■ 見学イベントの参加者。

関 西



■ 完成したカレー。

8月21日（土）に、大阪府の島本町ふれあいセンターにて、リコネクト関西の「創作カレー料理企画」が行われ、約30名の関西地区の20代を中心とする若手校友が参加した。当会報239号の表紙にご登場いただいた「パパ料理研究家」の滝村雅晴さん（'93 産社）を特別講師に招き、参加者は滝村さんから料理に関するレクチャーを受けたり、チーム対抗でカレーに使う食材をかけたゲームを行うなどしながら創作カレーづくりに挑戦。定番風のものや個性派カレーが完成した。その後、各チームの代表がそれぞれに自分のチームのカレーをプレゼンテーションし、そのコンセプトやポイントなどをアピールしながら、各チームのつくったカレーを参加者が食べ比べするなど親睦を深めていた。

■ 滝村さん（中央）のアドバイスを受けてカレー作りに挑戦する参加者たち。

茶道研究部の夏季遠征「石川茶会」が開催され、多数の校友が参加しました。

8月22日（日）に石川県金沢市において立命館大学茶道研究部の夏季遠征「石川茶会」が開催された。会場は日本海に面し、北前船の寄港地として栄えた金石本町にある「石川県銭屋五兵衛記念館」。この記念館には、豪商銭屋五兵衛が風雅を好み、茶の嗜み深く茶具の収集にも熱心であったことから立派な茶室・庭園が設けられており、茶道研究部の学生はこの絶好のロケーションのもと、存分に日頃の修練の結果を披露した。

茶道研究部は創部65年目。夏季茶会は、1952年に福岡県太宰府市で初回開催してから、ほぼ毎年、全国各地で開催されており、

今回は55回目、石川県での開催は通算8回目となった。当日は立命館校友・関係者をはじめ、地元高校生や一般市民など総勢170名余りがお茶席を楽しんでいた。

茶道研究部は10月30日（土）に福岡市で開催される「オール立命館校友大会2010 IN 福岡」にも参加し、お手前を披露する予定。



■ 石川茶会の様子。

立命館大学相撲部が串本町で合宿を行い、子ども向けの教室を実施。地元校友の激励もありました。

8月20日から5日間、立命館大学相撲部15名が和歌山県串本町で、地元の中学生を対象にした相撲教室を開いた。相撲部は今年初めて、同町の施設「海と自然の学校」を拠点にした強化合宿を実施しており、相撲教室はアマチュア相撲の普及や地域とのふれあいを目的に、施設近くの潮岬中学校に特設の土俵を設けて開かれた。教室には同中学校の生徒12名が集まり、相撲部員は、しこや「す

り足」などを指導するなどしながら交流を繰り広げていた。また、激励のために合宿地を訪れた地元校友からの食材の差し入れもあった。



■ 相撲教室によるふれあいの後、集合写真に納まる相撲部員と潮岬中学校の生徒たち。

校友会本部ではリコネクトと一緒に企画・運営して下さる20代の校友の方を募集しています。興味・関心をお持ちの方は almuni@st.ritsumei.ac.jp までご連絡下さい。また、<http://alumni.ritsumei.jp/reconnect/> にてリコネクトの企画のご案内もしております。

都道府県校友会

- ◆6/19 新潟県校友会総会
(85名・万代シルバーホテル)
- ◆6/20 長野県校友会総会
(63名・松本東急イン)
- ◆6/26 富山県校友会総会
(60名・名鉄トヤマホテル)
- ◆6/26 山梨県校友会総会
(40名・古名屋ホテル)
- ◆7/2 大阪校友会校友の集い
平成22年度年次大会
(700名・ザ・リッツ・カールトン大阪)
- ◆7/3 神奈川県校友会校友の集い(総会)
(114名・崎陽軒本店)
- ◆7/3 岩手県校友会総会
(23名・ホテル東日本)
- ◆7/3 徳島県校友会総会
(48名・阿波観光ホテル)
- ◆7/10 滋賀県校友会総会
(40名・ホテルボストンプラザ草津)
- ◆7/10 秋田県校友会総会
(17名・秋田ビューホテル)
- ◆7/10 香川県校友会総会
(120名・ホテルパールガーデン)
- ◆7/11 静岡県校友会ALL-Rits校友の集い2010
(77名・ホテルクラウンパレス浜松)
- ◆7/17 高知県校友会総会
(40名・オリエントホテル高知)
- ◆7/17 宮城県校友会総会
(41名・仙台ガーデンパレス)
- ◆7/24 青森県校友会総会
(16名・ウェディングプラザアラスカ)



新潟県校友会総会



富山県校友会総会



大阪校友会校友の集い



神奈川県校友会校友の集い



岩手県校友会総会



秋田県校友会総会



香川県校友会総会



静岡県校友会ALL-Rits校友の集い

- ◆7/24 岐阜県校友会総会
(120名・ホテルグランヴェール岐阜)
- ◆7/24 愛媛県校友会総会
(51名・国際ホテル松山)
- ◆7/25 石川県校友会総会
(70名・ANAクラウンプラザホテル金沢)
- ◆7/25 岡山県校友会総会
(160名・アークホテル岡山)
- ◆8/7 沖縄県校友会総会
(70名・ホテルロイヤルオリオン)
- ◆9/4 広島県校友会総会
(140名・ホテルグランヴィア広島)



石川県校友会総会



岡山県校友会総会



沖縄県校友会総会

海外校友会

- ◆7/22 北京校友会懇親会
(7名・大董焼鴨店)
- ◆7/24 第1回上海今出川会
(220名・花園飯店)
- ◆7/26 シンガポール校友会懇親会
(15名・Palm Beach)



北京校友会懇親会

地域校友会

- ◆6/12 嘉飯わだつみの会総会
(29名・ことぶきかいかん)
- ◆6/19 東広島地区校友会総会
(31名・賀茂鶴吉号蔵)
- ◆7/4 八幡支部(えんじの会)総会
(30名・松花堂美術館別館)
- ◆7/10 奈良県校友会「南和会」
設立10周年記念総会
(55名・橿原ロイヤルホテル)
- ◆7/10 山口周南地区校友会総会
(42名・レストランパー OPA)
- ◆8/29 立命館湘南クラブ(ランチ会)
(43名・レストランパウゼ)



嘉飯わだつみの会総会



八幡支部総会



奈良県校友会「南和会」総会

職域校友会

- ◆7/8 立命京滋観光の会総会・交流会
(46名・美濃吉本店竹茂楼)
- ◆7/16 ひろぎん立命会第1回総会
(80名・ホテルグランヴィア広島)
- ◆7/24 立命館公認会計士校友会総会
(40名・朱雀キャンパス)
- ◆8/10 Rits不動産ネットワーク例会
(76名・京都タワーホテル)
- ◆8/21 立命館学園会計人会総会
(60名・京都ホテルオークラ)
- ◆8/27 姫路市役所衣笠会総会
(35名・ホテル日航姫路)



立命京滋観光の会総会交流会



公認会計士校友会総会



Rits不動産ネットワーク例会

学部・学科校友会

- ◆6/8 立命館大学建設会広島支部総会
(80名・広島県文化センター)
- ◆6/20 立命館大学機友会兵庫支部総会
(80名・ライブハウス&レストランボチ)
- ◆6/20 校友会RIMO総会
(70名・三井ガーデンホテル大阪淀屋橋)
- ◆6/27 立命館大学応化会総会
(70名・京都タワーホテル)
- ◆7/9 関東建設会総会
(30名・大手町サンケイプラザ)
- ◆7/30 滋賀衣笠会(建設会滋賀支部)総会
(50名・琵琶湖ホテル)



立命館大学応化会総会

サークルOB・OG会／その他の会

- ◆6/6 立命館大学学生法律相談部
OB・OG会
(12名・衣笠キャンパス存心館)
- ◆6/18 岡山県校友会新卒業生歓迎会
(37名・アークホテル岡山)
- ◆6/26 落語研究会45周年記念落語会
(250名・ウィングス京都イベントホール)
- ◆7/15 36年度英米文学同期会
(30名・札幌全日空ホテル)



立命館清和会総会

- ◆7/24 立命館清和会総会
(600名・ウエスティン都ホテル京都)
- ◆8/7 立命館大学法学部商法
塩田ゼミOB会
(27名・京都ホテルオークラ)
- ◆8/8 APU校友会2010年度校友大会
(53名・大阪第一ホテル)
- ◆8/12 立命館大学憲法研究会OB会例会
(20名・花伝)
- ◆8/28 2010ALL立命館交流パーティー
in北海道
(900名・立命館慶祥中学校・高等学校)
- ◆8/28 三木義一先生の還暦を
お祝いする会
(136名・ウエスティン都ホテル京都)



APU校友会2010年度校友大会



2010ALL立命館交流パーティーin北海道



三木義一先生の還暦をお祝いする会

『白川学入門講座』全3巻が9月に出版されます

今年は、立命館が生み出した、世界に誇る大学者、故白川静先生の御生誕100周年に当たります。また、白川先生を顕彰するために設立された立命館白川静記念東洋文字文化研究所は、5周年を迎えることができました。

この2点のための記念事業の一つとして『白川学入門講座』全3巻の刊行を企画し、この9月に出版されます。

これまで、多くの白川ファンから寄せられたおことは、白川先生の御著書が大量であり、どれを読めばよいのか迷ってしまうものでした。

そこで、当研究所は白川先生のお仕事の全体が分かるように、どういう御著書があり、その内容はどのようなものであるかということを解説する目的で、第1巻(文字)・第2巻(文学)・第3巻(思想・歴史)に分けて、入門講座を完成いたしました。

つきましては、校友の皆様にぜひ御購読賜りたく、ここにお申し上げます。

書店での価格は3巻セットで税込5040円(各巻1680円)ですが、校友の皆様には限り約2割引の4000円(送料込)にてお求めいただけます。下記にお申し込みいただけますとありがたく存じます。

所長 加地伸行(立命館大学教授)

お申し込み先

〒603-8577 京都市北区等持院喜多町56-1
立命館白川静記念東洋文字文化研究所
075-465-8225(中島・川根)
(FAX 075-465-8245)
※住所、氏名、卒業年を明記して下さい。



スポーツ健康科学部紹介

今春、新たに「スポーツ健康科学部」と「大学院スポーツ健康科学研究科」がびわこ・くさつキャンパス（BKC）に開設された。「スポーツ科学」と「健康科学」を融合させた学びが実現する新学部は自然科学と社会科学の領域を超えて、総合的・学際的な学びを展開することを目的にしている。さらに、地域住民参加型の運動教室など、地域の健康づくりを視野に入れた取り組みも繰り広げている。ここでは新学部、および新研究科で展開されている学びについて紹介する。



田畑 泉 学部長

「スポーツ科学」と「健康科学」を融合した学部

皆さんは「生活習慣病」という言葉を耳にしたことがありますよね。この予防に向けて運動や食事の面から「健康」について学び、研究することも私たちのミッションの一つです。前期が終わりましたが、学生たちは出席率も高く、目を輝かせながら、大学での学びを楽しんでいる印象を受けています。



スポーツ健康科学部は、これまでにはないタイプの学部です。「スポーツ」「健康」そして「栄養」。この3つは、それぞれが共存しているのはイメージできますよね。例えば「健康のためのスポーツ」、あるいは「健康のための栄養」といった言葉がよく聞かれるなど、現代社会では常に関わり合っているのです。私たちは、これらすべてにおける科学的な根拠を理解し、様々な分野で活躍する学生を育成しています。最先端の設備が揃っており、これからたくさんの研究成果が出てくると思いますので、校友の皆さまも楽しみにしてください。

学生には、スポーツ科学と健康科学の両方を学びながら指導力や実技力、理論を身につけてもらいたいと思います。この学問では「現場でいかに実践するか」が大切です。そのため、日ごろから現場を視野に入れて物事を考える習慣を身につけてほしい。

TABATA プロトコル

田畑教授は日本スピードスケート連盟のトレーニングドクターの経験があり、選手の競技力向上につながる研究活動を行ってきた。その後、国立健康・栄養研究所にて、生活習慣病と食事、運動の関係についても研究してきた。こうした経験から「健康」と「競技力向上」の両方を専門分野としている。この田畑教授らが1990年に書いた論文が今、欧米を中心に注目を集めているのはご存知だろうか。「20秒運動して、10秒休む」を8回、計4分やれば運動能力が飛躍的に向上するといった内容で、「TABATA プロトコル」と呼ばれる、時間がない人が効果的に運動するためのプログラムである。これは元々、五輪で金メダルを取るような運動能力の高い競技選手のために開発されたものだが、実は最近の研究でこの運動は糖尿病の予防につながる事が分かってきた。糖尿病の予防には「糖代謝をよくする物質をつくること」が効果的なのだが、その物質は「強い運動」によってつくられる、というのだ。これは「健康」と「競技力向上」の両面から研究してきた田畑教授ならではの実績で、同教授は「病気の予防に関する研究」の第一人者として注目されている。

大学で健康に効果的な運動などを学ぶ訳ですから、それを学生が頭の中で理解するだけではもったいないので、家に帰って実践するよう促しています。現場から得るものはたくさんありますから。学生自らが健康に関する情報を集めながら実際に親御さんを診断し、どうすれば運動量が増えるのか、といったことを考えてみてほしいのです。そういった、日々における意識が大切です。私たちが目標に掲げるのは「世界一の学部」。教職員は熱い人ばかりで、このチームワークを持ってすれば実現できる目標です。この分野の研究は一人ではできないので、色んな分野で協力しながらプロジェクト研究を進めていきたいです。

私がぜひ、立命館で実現したいのは校友の方との「コホート研究※」です。通常、この研究には莫大な費用がかかるため、国内ではほとんど行われておらず、日本人の研究者もアメリカ人の研究データを使用しているのが現状です。コホート研究は10年以上蓄積したデータが必要になりますので、所在がはっきりしている校友会のような組織がこの研究の理想です。高性能の機器で身体を診断しますのでぜひ、30万人の校友の「立命館コホート」を実現しましょう。詳細が決まりましたら、お知らせさせていただきますと考えております。

※コホート研究…人間集団を対象として、病気の原因や本態を究明する医学の一分野。感染症の原因や動向を調べる学問であったが、今日では「健康」に関する研究などを対象としている。

学 び の 4 つ の 柱

総合的・学際的な領域から、スポーツ健康科学を幅広く学ぶ

スポーツ健康科学を中心に理学、工学、保健衛生学、医学、体育学、教育学、経済学、経営学などの学問領域を含めて、総合的・学際的な学びを展開している。1・2年次では、生理学や生化学などの「自然科学」と、経済学や経営学などの「社会科学」の基礎を学習。3・4年次では、将来の進路や関心に沿って学べる「スポーツ科学」「健康運動科学」「スポーツ教育」「スポーツマネジメント」の4つのコースを設け、スポーツや健康、マネジメント分野の理論と実践力を身につけた人材の育成をめざしている。



学 び の 特 色

4年間一貫した小集団演習を展開

スポーツ健康科学部では確実に学びを深めていく系統的カリキュラムを組み、1・2回生は教養科目、外国語科目、日本語表現などのリテラシー科目、「トレーニング科学」「コーチング論」「組織論」「マーケティング論」などの基盤科目が中心で、3・4回生では各プログラムの専門科目を中心にしたカリキュラムを編成。そのほか、実践的に学ぶ演習、実習科目なども配置している。また、1回生の「基礎演習」、2回生の「研究入門」といった、低回生から小集団演習も取り入れ、3・4回生では「専門演習（ゼミナール）」に所属し、学びの集大成として卒業論文に取り組む。さらに、外国語科目でも少人数クラスを編成し、4年間を通じた小集団演習によって、学生一人ひとりをきめ細かく指導している。

地域や企業と連携した実践的教育も特徴で、地域の中学校・高校などでスポーツ、運動指導や健康づくり支援に取り組むことができるプログラムを用意しているほか、国内外の企業と連携し、インターンシップや共同プログラムを設けるなど、講義で学んだ理論を実践できるチャンスも広がっている。外国語科目では「プロジェクト発信型英語プログラム」を実施。関心あるテーマについて英語で発表することによって、英語運用能力とコミュニケーション能力を高め、スポーツと健康の分野で国際的に活躍できる人材の育成をめざす。



さらに、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を活用した教育システムを構築しており、確かな学力を身につける学習環境も整備。また、「調査方法論」などで、ICT活用の手法や調査の方法などのスキルを学び、これらの教育システムの活用につなげていく。資格取得のサポートも徹底し、中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）の取得が可能なカリキュラムも編成。また、健康運動指導士の資格取得に必要な指定科目も開講している。そのほか、日本体育協会公認資格の免除科目を設け、スポーツや健康に関わる資格取得のサポートも行っている。

一方、スポーツ健康科学研究科では、近年のスポーツと健康科学における社会的関心の高まりの中で、科学的根拠に基づくトレーニングや、スポーツと健康を科学的に捉える視点が求められる中、この学問の広がりにも焦点を当てた高度な研究を行うとともに、スポーツ健康科学分野の将来の担い手となるための実践力を養成。多様な実践活動で得た関心を高度な研究を通じて、修士論文という形でまとめ、本学の伝統ある体育会系クラブ、地域、プロスポーツチームとの連携などにより、実践の現場を対象とした課題解決型プロジェクトも実施している。さらにBKCは、生命科学部、薬学部を擁しており、ライフサイエンス分野と連携した学際的な研究の広がりの可能性も持っている。



◀ 学部生229名の中で、欠席者はほとんど見られない。大講義室で行われる授業でも、教員の問い掛けに対して学生が積極的に回答するなど、双方向の授業が展開されている。

授業風景

◀ 少人数の授業では、ユニークな講義が展開されている。海老久美子教授（スポーツ栄養学）のサービスマネジメントインスティテュートのゼミでは、落語家の橋屋圓太郎師匠を招いて「伝えること」に焦点を当てた学びが繰り広げられた。



▶ 新しい校舎で、1期生の学生たちは将来の夢実現に向けて学んでいる。



▶ キャンパス1階のエントランスホールは、学生同士のコミュニケーションの場になっている。

キャンパス内風景



▶ 教員同士が頻繁に打ち合わせる光景もしばしば。強固なチームワークで世界一の学部をめざす。

教 授 イ ン タ ビ ュ ー



長積 仁 教授
(スポーツマネジメント)

まちの顔となるスポーツ

スポーツを通じたまちづくりが私の研究テーマです。中でも、地域住民が「このまちに住んでよかった」と、地域に対して愛着を感じ、誇れるまちになるためにスポーツがどのように機能するのかということに興味を持っています。

先日、南アフリカでサッカーのW杯が開催されましたが、勝敗に一喜一憂した人は少ないでしょう。開催にあたって道路やスタジアム、ホテルや公園などの都市機能が整備され、世界中から訪れる多くの人々によって、南アフリカのまちは潤い、活気にあふれました。このようにスポーツは、個人の心身の健康づくりだけに留まらず、人と人とのつながりや文化に対する理解を深め、さらには地域内の一体感を高める、まさに、まちの顔のような存在となります。

BKCがある滋賀県草津市では、現在、「スポーツ振興計画」を策定しようとしています。政策はまちを機能させるためだけでなく、まちの個性を彩るためにも不可欠なものです。そして、その政策に命を吹き込むのは、行政だけでなく、そのまちで生活を営む住民自身です。スポーツを通じて、住民が健康的でイキイキと暮らせるような魅力的なまちづくりにつながる政策を、草津市から発信できればと考えています。

私は、中学・高校と立命館で学びました。他大学に進学したのですが、立命館に対する想いはずっと強く、今回縁があってスポーツ健康科学部に赴任し、いまは後輩を育てているような気持ちです。以前に勤めていた国立大学の学生に比べると、立命館大学の学生は、とても個性的です。高校を卒業したばかりの1回生ですが、アスレティックトレーナーになりたい、プロ野球の球団で働きたいなど、将来の夢を持って学びに来ている学生が本当に多く、私の研究室にも熱心に足を運んでくれます。そのような学生の想いをしっかりと受け止め、学生自身の主体性とポテンシャルを引き出しながら、抱いた志が形となって現れるようにサポートしたいと考えています。

大学院スポーツ健康科学研究科1回生

森嶋琢真 さん

首都圏の大学を卒業後、スポーツ健康科学研究科に進学しました。後藤一成准教授（トレーニング科学）の指導の下で学びたいと思ったことが進学を決めとなりました。設備も充実していて、密度の濃い学びが実現しています。当面の目標は博士課程に進み、研究成果を出すことです。



後藤准教授（左）と森嶋さん

Student Voice

ユ ニ ー ク な 取 り 組 み

スポーツ健康科学部、および大学院スポーツ健康科学研究科では、多数のユニークな取り組みが展開されている。ここではその一部を紹介する。

朝食懇談会

校舎内の「栄養調理実習室」は、ちゃぶ台と座布団がずらりと並ぶ驚きの光景が広がる。この一風変わった教室で、毎週水曜の1限の前に開かれている「朝食懇談会」は、教員と学生が一緒に朝食を楽しむ取り組み。栄養バランスの良い食事を取りながら、学業やそれ以外の様々な会話が繰り広げられるほか、教員が学生の悩みについてヒアリングするなど、生活状況の把握に努める場としての機能も果たしている。



教員と学生と一緒に、ちゃぶ台を囲んで朝食を取る。

このちゃぶ台や座布団は「朝食の雰囲気が出るように」と海老教授が提案。システムキッチンも完備し、家庭的なたたずまいにしている。「朝食懇談会」は少人数クラス（基礎演習）ごとに実施しており、輪になって座りながら食事を取った後、1限目の授業に出席するなど、規則正しい生活習慣を身に付けながら「健康」への意識を高める狙いもある。

セラバンド教室

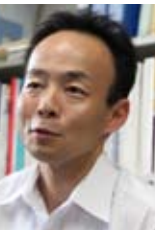
毎週、地域の高齢者たちがBKCに集まり、伸縮性の高いゴムバンドを使って体を動かしている。このゴムは「セラバンド」という、筋力を向上させるための運動器具。これを引っ張ることで筋肉に負荷抵抗がかかり、手軽に筋トレができるのだが、このトレーニングを行う教室を地域に開放している。このセラバンドを用いた運動の普及に努める藤田聡准教授が教室を担当し、高齢者とともに汗を流している。



地域の高齢者とともに繰り広げるセラバンド教室の様子。

藤田准教授は、介護予防の観点から「筋肉の量の減少や筋力が低下するメカニズムの解明」とともに、アスリートのパフォーマンス向上に効果的な運動についても研究している。ヒトの筋肉の「量」が老化とともに減ることを「サルコペニア」というが、その原因の

ひとつに運動不足や栄養障害も挙げられる。セラバンド教室は研究データの取得も目的の一つだが「運動で多くの人を元気にしたい」という思いを持つ藤田准教授は「私の教室が終了した後も、地域の人が主導して教室を続けてもらえたら嬉しい」と語る。



藤田 聡 准教授
(運動生理・生化学)

そんな“地域派”な藤田准教授だけに、学生にも地域との関わりから得る学びを大切にしよう指導。「地域と関わりは対人スキルの向上など机上では学べないものがたくさんある。学んだことを高齢者にアドバイスするなど、指導する経験から得るものは大きい」と話す。目標は「『藤田の研究のお陰で運動するようになった』と、多くの人に言っていただけること」。そして、スポーツジムは敷居が高いと考えている校友へのメッセージとして「校友の皆さんもセラバンドを使った運動を始めてみてください」と呼びかけている。

施設紹介

最先端の教育・研究環境が充実の学びを実現。非常にめずらしい研究設備も備えている。

施設紹介①

スポーツの動作の計測・解析が行えるスポーツパフォーマンス測定室。複数のハイスピードカメラを設置し、投げたボールの回転をスロモーションで観察することも可能。



施設紹介②
酸素の濃度を調整できる実験室では、アスリートの競技力向上に向けた研究、およびトレーニングが行われている。

立命館のゼミナール訪問

衣笠 徳川ゼミ (法学部)



📖 徳川ゼミ：法学部 徳川信治教授 📖 ゼミテーマ：国際社会における法的諸問題

徳川ゼミのテーマは「国際社会における法的諸問題」。このゼミでは、実際に起こった事件を対象にして、原告、被告、裁判官に分かれて模擬裁判形式でゼミを進め、活発な論争が繰り広げられています。徳川教授にインタビューし、ゼミ取材しました。

Interview

人権の国際的な保障が及ぼす国内法への影響

私の研究テーマは「人権の国際的保障とその国内法への影響」です。中でも、現在は「ヨーロッパの人権保障」を中心に研究しています。今、ヨーロッパでは人権保障に関する裁判の仕組みが大きな転換期を迎えています。その流れが及ぼす国内法への影響を追究しています。ヨーロッパでは47カ国が「ヨーロッパ人権条約」に加盟しています。その下にヨーロッパ人権裁判所があるのですが、これは各国の最高裁判所の判決に不服であれば、個人が直接申し立てできる機関です。この人権裁判所によって、各国の域を超えたヨーロッパのスタンダードな人権基準が作り上げられています。

一方で、そういった動きが「各国国内法にどういった影響を与えるのか」「その判決はどのように執行されていくのか」といったことが問題視されています。さらに、訴えが多すぎて人権裁判所が対応し切れないのも実情です。年間の申し立て数はおよそ4万件にものぼるのですが、この裁判所には47人の裁判官しかいません。すべてを解決するのは物理的に無理な状態で、こうした仕組みそのものの変化が求められています。私はこの枠組みの動向について研究しています。

また、この人権裁判所の動向は、ヨーロッパの統合にも大きく影響します。ヨーロッパでは今、EU（ヨーロッパ連合）が、政治的にもヨーロッパの統合を強化しようという流れになっていますよね。2009年12月に発効された「リスボン条約」の策定では「人権に関する項目の適用」が問題になりました。ヨーロッパにおいて人権がこれからどのような役割を果たしていくかは、今後の重要な課題なのです。これは、

ヨーロッパでは多くの研究者が扱うテーマなのですが、日本ではあまりスポットが当てられてきませんでした。こうした人権問題の法的実状を話しますと多くの学生がアジアの人権保障はどうなのか、と関心を示し、法曹、大学院進学や外交官など国際分野への就職といった進路につながっていくこともあります。

ゼミは、学生の能動性を養うために、グループ編成や模擬裁判で扱う事件・運営も彼らに決定を委ねています。私のゼミは「鬼ゼミ」と称されており、ゼミの時間外での学習作業が要求されます。ゼミ発表の前などは遅くまで、学内のラウンジで資料作成や裁判の作戦ミーティングを行っている姿を目にします。

しかし、この厳しい学習環境の中で、1年も経てば、全員が驚くほど成長します。いや、「化ける」といった方が正解かもしれません。彼らはグループワークによって切磋琢磨し、知識やディベート力を身に付けています。こうした集団活動の中で成長していくという経験は就職活動の自信にもつながっていると思います。ゼミ生一人ひとりが集団の中でどう成長していくのか、とても楽しみです。

Profile

徳川 信治 (とくがわ しんじ)

法学部教授

1990年立命館大学法学部卒業、1995年立命館大学大学院法学研究科博士後期課程を修了。法学博士。(財)世界人権問題研究センター研究員を経て1996年に本学へ。研究分野は「国際人権法」「国際法」。趣味は早朝の散歩と、妻が点てる茶を味わうこと。所属学会は国際法学会、世界法学会、民主主義科学者協会法律部会、国際経済法学会、国際人権法学会。



グループ間論争のポイントは各自の役割

徳川ゼミの最大の特徴は週に一度行われる「国際法ディベート」。ゼミ生たちは原告、被告、裁判官の各グループに分かれ、模擬裁判形式で論争を繰り広げている。グループ同士のディベートとなるため、徳川教授が重要視するのは「自分がどういった役割を果たすこ



とができるか」。グループ内では議論をまとめる者、積極的に発言する者、資料を読み込んで知識を蓄える者など、それぞれが自分の役割をいかに上手くこなすかがポイントとなる。ゼミには4回生有志も参加し、適時、アドバイスを送るなど「ゼミ生、先輩、教授」がスクラムを組んで国際法を研究している。

毎年12月には6、7大学が集まる「関西国際法ディベート大会」が開かれ、約1ヶ月前からこの大会に照準を合わせた準備が始まることに加え、年度末には3回生レポートの作成など、秋から冬は繁忙期。この時期にゼミ生は最も成長するという。

Student's Voice

ディベートは言葉のキャッチボール

法学部3回生
袴田健弘さん



ディベートは言葉のキャッチボールだと思います。いかに相手に自分の主張を伝えるか、そして相手がそれをきちんと受け取って、どれだけその主張に反論することができるか。徳川ゼミでは、このキャッチボールを通して、ゼミ生は一步步コミュニケーション力を身につけています。そして、ここで培った力を活かして仕事に挑んでいきたいです。

Schedule <予定>

●3回生

2010.4 国際法概論の講義

思考トレーニング

2010.5 模擬裁判スタート

2010.夏 ゼミ旅行(沖縄)

ゼミ合宿

2010.11 3回生レポート構想報告

2010.12 関西国際法ゼミディベート大会

2011.1 3回生レポート提出



立命館大学・立命館アジア太平洋大学一般入学試験要項(願書)

2011年度「立命館大学・立命館アジア太平洋大学一般入学試験要項(願書)」は10月下旬発行予定です。校友の皆様には無料でお届けいたします。ご希望の方は以下の要領で立命館大学入学センターまでご請求ください。

- ご請求はFAX、ハガキ、E-mailのいずれかにて承ります。
- 「一般入学試験要項送付希望」の旨を明記いただき、あわせて以下の事項についてお知らせください。

①お名前 ②送り先のご住所(郵便番号含む) ③電話番号 ④卒業年 ⑤出身学部

【FAXの場合】075-465-8210 【E-mailの場合】nyushi10@st.ritsume.ac.jp

【ハガキの場合】〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学入学センター「校友用一般入学試験願書請求係」まで

*11月上旬より、順次発送いたします。 *受付終了日:2011年1月5日(水)(※必着)

*お問い合わせは立命館大学入学センターまで(TEL:075-465-8351 9:00~17:30<土・日・祝および12/25~1/5を除く>)

校友の皆さまは
無料

立命館大学 心理・教育相談センターからのお知らせ

10月に無料相談会を実施

「カウンセリングを一度受けてみたいけれど、どんな感じなのかちょっと不安だな・・・」と感じておられる方にも、気軽に来ていただきたいと昨年から始めたこの相談会も3回目となりました。無料相談会の参加をご希望の方は、以下をご参照の上、お申し込みください。

- 日 程 2010年10月30日(土)
- 時 間 11:00~16:00の間で1枠50分程度
- 場 所 立命館大学心理・教育相談センター
(立命館大学 衣笠キャンパス 志学館1階)

●お申し込み方法

電話での完全予約制となります。

<申し込み締め切り10月22日(金)>

TEL:075-466-3430(心理・教育相談センター)

10周年記念 公開講座シネマで学ぶ「人間と社会の現在」特別編「ささえる、生きる、そだつ ~家族の絆と発達障がい~」

開設10周年を記念し、公開講座「シネマで学ぶ」の特別編として、自閉症やアスペルガー症候群を扱った映画を取り上げ、発達障がいのある人を取りまく家族との生活や彼らの世界から見えてくる人間性から、現代社会が見失いつけている感性や個性を「家族の絆」という視点から見つめなおします。

- 日 程 2010年10月23日(土)24日(日)25日(月)
- 会 場 京都シネマ(四条烏丸、COCON烏丸3F)
- 上映作品 「星の国から孫ふたり」「彼女の名はサビーヌ」他1本
(監督や映画関係者との対談予定)
- 参加費 有料1000円/800円(立命館大学教職員・学生は500円)

当日、会場にてチケットを販売します(事前予約不要)。

その他、心理相談(カウンセリング)に関するお問い合わせ先

TEL:075-466-3430(心理・教育相談センター)

大阪

立命館大阪オフィス 公開講座(後期)のご案内

2010年度 大阪・京都文化講座(後期)「大阪・京都の地宝と考古学」

大阪大学21世紀徳徳堂、立命館大学文学部、立命館大阪オフィス 共催

コーディネーター:永田 靖(大阪大学 文学研究科 教授)

桂島宣弘(立命館大学 文学部 教授)

回	日 程	タイトル	担 当
第1回	10/5(火)	京都の先史時代	矢野健一(立命館大学 文学部 教授)
第2回	10/19(火)	武器と先史社会 -大阪の稲・鉄・戦争-	寺前直人(大阪大学 文学研究科 助教)
第3回	10/26(火)	摂河泉の王者たち	下垣仁志(立命館大学 文学部 講師)
第4回	11/2(火)	弥生・古墳時代における近畿地域の生産・流通構造の発展	長友朋子(大阪大学 文学研究科 招聘研究員)
第5回	11/16(火)	日本海の弥生王墓と巨大前方後円墳	福永伸哉(大阪大学 文学研究科 教授)
第6回	11/30(火)	京・嵯峨野の古墳群	和田晴吾(立命館大学 文学部 教授)
第7回	12/7(火)	大阪の飛鳥時代	高橋照彦(大阪大学 文学研究科 准教授)
第8回	12/14(火)	京都の古代寺院と秦氏	高 正龍(立命館大学 文学部 教授)

- 定 員 各80名(定員になり次第締め切らせていただきます)
- 受講料 1回2,000円(7回以上一括申込みの場合、13,000円)
- 会 場 立命館アカデミア@大阪 6階 6Aセミナールーム
- 時 間 14:00~15:40(講演90分、質疑応答10分)

いずれの講座も 問い合わせ・申込み先

立命館大阪オフィス TEL:06-6201-3610

2010年度 立命館大阪オフィス講座

「立命館大阪オフィス講座」は1999年の開講初年度以来、皆様を「知のプロムナード」に誘い続けて12年目を迎えました。本年も、実業、人文・社会・自然の各々の分野において第一線で活躍中の学識経験者・研究者をお招きして、皆様の科学の世界へご案内いたします。(全21回)

※講座内容・会場等の詳細は、【大阪オフィス講座】←検索

http://www.ritsume.ac.jp/life-09/e09_04_j.html

- 定 員 各90名(定員になり次第締め切らせていただきます)
- 受講料 1回1,000円(17回以上一括申込みの場合、17,000円)
- 時 間 14:00~15:40(講演90分、質疑応答10分)

立命館アカデミア@大阪は、2011年1月より梅田に移転し、立命館大阪キャンパスに名称変更いたします。



学生の活躍

図書館PRポスターを 在学生・OBが作成!

図書館にアカデミックな場としてだけでなく、学生が学び交流する身近な場としても関心を持ってもらうことを目的として大学図書館主催のコンテストを通じ、ポスターが完成しました。

ポスターの作成には、佐藤典司・経営学部教授の専門演習のゼミ生・OBが参加。長谷川博也さん(経営3)の班がデザインしたポスターが図書館長賞を受賞。現在、図書館内に掲示されています。



図書館長賞を受賞したポスター

RoboCup 2010 in Singapore にて大健闘!

情報理工学部プロジェクト団体ロボカップ

シミュレーションリーグ部門 Ri-one(リオン)が、6月19日～25日にシンガポールで開催された「RoboCup 2010 in Singapore」に参加しました。

RoboCupは、ロボット工学と人工知能の融合・発展のために自律移動ロボットによるサッカーを題材として日本の研究者らによって提唱されたもの。現在では、サッカーだけでなく、大規模災害へのロボットの応用、次世代の技術の担い手を育てる活動が行われています。

今大会でRi-oneは2D Soccer Simulation Leagueにおいて16位、Rescue Simulation Leagueでは、団体初となるベスト4入りを果たしました。



2010年度 国家公務員 採用Ⅰ種試験に13名が合格

6月22日、国家公務員採用Ⅰ種試験の合格発表が行われ、立命館大学からは13名が合格しました(全国私立大学4位)。

全国の申込者は26,888名(昨年度22,185)で、倍率は20.5倍と昨年(14.9倍)より大幅に上がっています。

教育・研究の成果

小笠原宏・理工学部教授ら 南アフリカ共和国と共同で、 地震予知のための観測計画を開始

小笠原宏・理工学部教授を中心とするグループによる、地震予知を目的とした「南アフリカ共和国 鉱山での地震被害低減のための観測研究計画」が8月6日から始まり



ました。
これは、科学技術外交の強化に向

けた国際協力機構(JICA)と科学技術振興機構(JST)の連携による地球規模課題対応国際科学技術協力事業の枠組みの中で行われます。

観測の対象は、同国の金鉱山の地下約1～4kmです。ここでしかできない至近距離観測によって地震の発生メカニズムを詳細に研究し、巨大地震の理解に応用しようというものです。

観測チームは、東京大学、東北大学、産業総合研究所、南アフリカの研究者、そして立命館大学の総勢150名を超える研究者や鉱山関係の人たちで構成され、期間は5年間(2010年～2015年)を予定しています。

安全な手術を可能にする 「指」付き内視鏡を開発

小西 聡・理工学部教授と滋賀医科大学の共



同研究チームが、視界を遮る粘膜などの生体組織を押しのかけて体内を観察できる内視

鏡を開発しました。

内視鏡の先端に微小な「指」を付け、空気や生理食塩水などを吹き込んで動かすことで、患部周辺を開いて視野を確保することができるようになります。この技術により、内視鏡を使った手術の安全性が高まることが期待されます。

今後3年後をめどに実用化の可能性を検討し、将来的には微小な指で触れた臓器の感触が分かる機能も実現していく予定です。

大学の取り組み

夏のオープンキャンパスを開催!! 16,000人を超える来場

7月31日、8月1日、28日、衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて、2010年度夏のオープンキャンパスを開催しました。

7月31日、8月1日のイベントでは学生スタッフによるキャンパスツアーや、課外活動を行うサークル・団体等によるステージ発表があり、衣笠キャンパスでは文学部学生が主催するアナウンス体験、産業社会学部によるラジオブー

スでのパーソナリティ体験なども実施しました。

びわこ・くさつキャンパス(BKC)では、今年新設されたスポーツ健康科学部のMR室見学や低酸素実験室体験、情報理工学部によるロボット体験など、実際に来場者が参加できるユニークな企画も実施されました。

また、8月28日には、各種入試対策講座も盛り込んだ内容で実施。夏のオープンキャンパスは3日間で昨年度より増加し、総勢16,279人の来場者がありました。

今回は入試直前の秋のオープンキャンパス(11月7日開催)を予定しています。

●入試・オープンキャンパスの詳細はこちら→
<http://ritsnet.ritsumeijp>



★ 立命館創始140年・創立110周年・APU開学10周年記念学生公募企画 ★

★第1回立命館招待フットサル大会 in BKC

8月28日、びわこ・くさつキャンパス(BKC)にて第1回立命館招待フットサル大会in BKCを開催しました。

この大会はBKCフットサルリーグ運営委員会が企画しました。大会前には、小学生にフットサルのルールや楽しさを伝える「第1回夏休みフットサル教室 in BKC」も4日間にわたって開催。大会当日は、近隣のスポーツ少年団7チーム、約80名の小学校3～4年生が出場し、熱戦を繰り広げました。



★京都鴨川之夜 カモシネマ6「夏の鴨川座」映画上映

8月21日、河原町今出川の鴨川西岸河川敷にて、本学の広告研究会らでつくるカモシネマ実行委員会主催、鴨川を美しくする会、関西学生広告連盟協力のもと、カモシネマ6「夏の鴨川座」を開催しました。

カモシネマとは、「人と人、人と映画、そして人と鴨川をつなぐ」というスローガンのもとに立ち上げられ、鴨川の河川敷に立てられた巨大野外スクリーンで映画を上映するイベントで、今年で6回目を迎えます。

当日は、京都が誇る鴨川の自然を守るためにまず清掃活動が行われ、多くの立命館大学生や地域の方々が参加しました。

日が暮れる頃には多くの学生や家族連れが会場に足を運び、1,000名近くの参加者が映画を鑑賞しました。



巨大野外スクリーンに見入る参加者

★楽しく街をきれいに「スポーツごみ拾いin南草津」

7月11日、学生団体「cubes」が「スポーツごみ拾いin南草津」を開催しました。拾った様々なゴミにポイントをつけ、点数を競いながら楽しくごみを拾うイベントです。

当日は大学生17名、地元の小中学生17名が参加し、最終的に約10kgのゴミを集めました。

ゴミ拾い終了後、環境に関するクイズ大会が行われ、家庭の汚水が河川に与える影響や缶のリサイクル率などが出題されました。子どもたちは大学生と協力しながら答え、楽しみながら環境の大切さを学びました。



小中学生17名が参加してくれました

●実施中・今後実施予定の学生公募企画(抜粋)

企画名	実施団体	実施日程	概要
映像で訴える(Webムービー制作プロジェクト)	GREENS	2010年7月～10月	教職員、OBなど立命館にゆかりのある人たちと一体となってWeb上で閲覧可能な立命館のCMを作り上げます。
BKC3リーグ連携企画	BKC3リーグ連合	サッカー：10月10日(予定)	BKC3リーグ(野球リーグ、フットサルリーグ、サッカーリーグ)が協力して、小学生を対象とした地域交流活動を行います。
日中学生交流団体freebird	Cross2010	2010年12月11日・12日	立命館アジア太平洋大学と立命館大学の国際系の学生団体が協力し、国際交流・国際協力に興味のある高校生・大学生100人に向けてイベントを実施します。
MovE♪	Rits 日本列島はみだせ 音楽園祭～限りない草原 へと踏込む人に～	2010年12月17日	110周年オリジナルの歌をつくり、各国の人が演奏します。その歌をインターネットで配信し、世界中の人が閲覧できるようにします。最終的に歌をセントラルアークで演奏披露します。

立命館創始140年・創立110周年・APU開学10周年記念企画の詳細はこちら → <http://www.ritsumeij.ac.jp/rs/110th/home>

SPORTS スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863

弓道部

弓道部男子 第58回全日本学生選手権で55年ぶり2回目の団体優勝

(8月9日～11日 日本武道館)

第58回全日本学生弓道選手権大会で、弓道部男子が55年ぶり2度目の優勝を飾った。同時に日本古来よりの伝統技術を最も多く継承している大学として、射道優秀賞も受賞した。

また男子個人戦では押之見洸希さん(理工2)が4位入賞を果たした。



ソフトテニス部

第64回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会で創部初の準優勝

(8月7日・8日 滋賀県長浜ドーム)

第64回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会(インカレ)が開催され、ソフトテニス部男子が団体の創部初の準優勝の快挙を成し遂げた。

準決勝では全日本大学選抜王座決定戦優勝の日本体育大学に勝利し、決勝戦に進んだが、早稲田大学に惜しくも敗退した。



ゴルフ部

関西学生選手権で男女共に優勝

(8月3日～5日 KOMAカントリークラブ)



関西学生選手権および関西女子学生選手権において、体育会ゴルフ部が男女共に優勝を飾った。

また、ゴルフ部の園田絵里子さん(文4)が2010年度LPGA(財団法人日本女子プロゴルフ協会)プロテストに合格した。



サッカー部

前野貴徳さんがJリーグ愛媛FCに入団内定

(8月4日 立命館大学衣笠キャンパス)

サッカー部の前野貴徳さん(産社4)が2010年度新加入選手として日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)の愛媛FCに入団することが内定した。



相撲部

西日本学生個人体重別選手権にて島子隆司さんが優勝

(7月25日 堺市大浜公園相撲場)

島子隆司さん(産社4)が85キロ未満級の決勝で、九州情報大学の選手を寄り切りで下

し、3年ぶりの優勝を決めた。



男子ホッケー部

第29回全日本大学ホッケー王座決定戦で連覇達成

(7月4日 立命館大学校野ホッケー場)

第29回全日本大学ホッケー王座決定戦において、男子ホッケー部が朝日大学に3対1で勝利し、2年連続の優勝に輝いた。

本大会の最優秀選手にはキャプテンの田中健太さん(産社4)が選ばれた。



立命館高校

第55回全国高校軟式野球選手権府大会立命館高校が22年ぶり優勝

(7月28日 宇治市太陽が丘球場)

第55回全国高校軟式野球選手権京都府大会の決勝が行われ、立命館高校軟式野球部が6-3で京都学園を降して、22年ぶり5回目の優勝を果たした。

8月3日に滋賀県彦根市の県立彦根球場で行われた近畿大会では和歌山県代表の新宮高校に0-5で破れ、惜しくも全国大会への進出を逃した。



CULTURE/ART 文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

法律相談部

富山市において移動法律相談を実施

(8月26日、27日 富山市サンシップ富山)

無料移動法律相談は、法律相談部が実践的に法律を学ぶ取り組みとして、長年にわたり実施している取り組み。弁護士が少ない地域を優先的に訪問しており、今回は富山市で実施した。

参加者からの相談には部員が対応。対応が難しい相談については同席した二宮周平・法学部教授をはじめとする先生方にアドバイスを心得て答えていた。

2日間を通じて合計66件の相談があり、広報活動を含め、富山県校友会の皆様には多大なるご協力をいただいた。



飛行機研究会

飛行機研究会が鳥人間コンテスト選手権大会に4年ぶりの出場!

(7月24日・25日 滋賀県彦根市松原海水場)

第33回鳥人間コンテスト選手権大会(読売テレビ放送株式会社主催)に飛行機研究会が4年ぶりに出場した。この大会は自作人力飛行機による飛行距離を競う大会で、今回は人力プロペラ機ディスタンス部門での初めての挑戦となった。



大会では惜しくも上位入賞とはならなかったが、応援に訪れたOB、大学の関係者の前で全力のフライトを披露した。

立命館小学校

国際ロボット競技大会(WRO)関西予選大会で「立命館小+R」チームが優勝

(7月24日 立命館小学校)

国際ロボット競技大会(WRO)の関西大会小学生・高校生の部が立命館小学校において開催された。



大会には小学生部門15チーム、高校生部門12チームが参加した。

小学生部門では立命館小学校の「立命館小+R」チームが昨年に引き続き優勝し、2年連続の世界大会出場に向けて全国大会へ出場する。

CAMPUS ACTIVITIES 学生活動

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

「学生FDサミット・2010夏」を開催!

(8月28日・29日 立命館大学衣笠キャンパス)



学生FDスタッフと教育開発推進機構が主催となり「学生FDサミット・2010夏」を開催した。この取り組みは、全国の大学の学生と教職員が大学の授業・教育について考えるというもので、今回は38大学から212名が参加した。

1日目の「しゃべり場」では学生・教職員が“大学教育の意義”をテーマとし、グループに分かれて議論を行った。

2日目は各大学の「学生FD取り組み紹介」や“大学教育の意義”についての「グループ発

表」などを行った。各グループの発表について活発な意見交換が行われた。

今回の学生FDサミットは、3月12日、13日に法政大学で行われる。

「立命の家 2010」を開催

(8月24日・25日 立命館大学びわこ・くさつキャンパス)

立命館大学の各学部のプロジェクト団体や学術系サークルが中心となり、地域の子もたちに自ら学ぶ楽しさを知ってもらう体験型学習の機会として企画・運営している「立命の家 2010」を開催した。今年で10年目を迎える。

当日は、パソコンで音楽やゲームをすることができるプログラム、オリジナルロボットや今年地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」の模型を造るプログラム、歌・踊り・カルタを通じて英語に触れてもらい、英語の楽しさを学んでもらうプログラムなどが用意された。

どのプログラムにも子どもたちは真剣な表情で参加していた。



お知らせ

映画「京都太秦物語」が東京、大阪、福岡など全国で公開

山田洋次監督と映像学部生が2年の歳月をかけて製作した映画「京都太秦物語」が東京と大阪をはじめ、全国で公開されます。皆さまこの機会にぜひご鑑賞ください。

●全国の公開地域

東京、大阪、福井、福岡、宮城

上映のスケジュール等はこちら

地域	映画館	公開日	お問い合わせ
東京	東劇	公開中	03-3541-2711
大阪	なんばパークスシネマ	公開中	06-6643-3215
福井	テアトル・サンク	10/9(土)～	0776-23-2706
福岡	福岡中州大洋	10/30(土)～	092-291-4058
宮城	MOVIX仙台	11/6(土)～	022-304-3700

詳しくはこちら

http://www.ritsumei.jp/news/detail_j/topics/6547/year/2010/publish/1

校友会・グループ インフォメーション ※（職）は職場電話番号

校友会・グループ	日 時	会 場	問い合わせ先	
文学部哲学同窓会 50 周年記念祝賀会・総会	10/2 (土) 14:00	からすま京都ホテル	中川 敦夫	06 (6945) 0004
和歌山県校友会総会	10/5 (火) 18:30	ホテルグランヴィア和歌山	山田啓二郎	0734 (71) 4911
建設会総会	10/16 (土) 14:00	京都タワーホテル	理工学部 環境都市系事務室内	077 (561) 4911
栃木県校友会総会	10/17 (日) 14:00	宇都宮東武ホテルグランデ	笠原 朋雄	028 (673) 1783
設立 90 周年記念兵庫県校友会総会 「校友のつどい」	10/23 (土) 11:00	神戸ポートピアホテル	岸本 真之	(職) 078 (222) 7111
千葉県校友会平成 22 年度 (第 25 回) 「R ちば校友の集い」	10/23 (土) 13:00	船橋グランドホテル	辻 信雄	043 (496) 6557
ワンダーフォーゲル OB 会総会	10/23 (土) 13:00	衣笠キャンパス存心館 702	松久 昌司 (メール) RUWV.OB@gmail.com	
高槻・島本校友会総会	10/23 (土) 16:30	アンシェルデ・マリアージュ	辻石 泰之	072 (687) 7438
茨城県校友会	10/24 (日) 13:00	水戸三の丸ホテル	木村 幸夫	029 (252) 8401
オール立命館校友大会 2010 in 福岡	10/30 (土) 13:00-17:00	グランドハイアット福岡	校友会事務局	075 (813) 8216
北摂校友会総会	11/5 (金) 18:30	アイボリーホテル	湯川 正之	(職) 06 (6844) 2001
軟式庭球部同好会 OB・OG 会 創立 50 周年記念パーティー・総会	11/6 (土) 13:00	琵琶湖ホテル	赤松 和也	090 (9715) 3407
福井県校友会総会	11/6 (土) 14:00	ホテルフジタ福井	古村 隆一	0776 (98) 4671
愛知県校友会総会	11/6 (土) 17:00	名鉄ニューグランドホテル	加藤 智大	(職FAX) 052 (937) 1250
埼玉県校友会 彩の国・立命校友の集い	11/7 (日) 15:00	東天紅 JACK 大宮店	常田 幸正	049 (224) 6535
マスコミ研究会 OB 会	11/13 (土) 14:00	レストラン菊水	北園 了三	06 (6730) 4199
宇部小野田校友会総会	11/13 (土) 18:00	ホテル河長	森島 正信	(職) 0836 (34) 8108
鳥取県西部校友会総会	11/26 (金) 18:30	米子全日空ホテル	大野木昭夫	(職) 0859 (32) 3308
東京校友会総会	11/27 (土) 未定	パナソニックセンター	立命館東京キャンパス	03 (5224) 8188
吉田寮寮友会総会	11/28 (日) 12:00 予定	鶴清	中村 光彦	06 (6422) 1308
情報会設立 20 周年記念総会	12/11 (土) 15:00	ホテルグランヴィア京都	情報理工学部事務室	077 (561) 5295

校友会消息（判明分）

叙勲 2010 年春分

□ 瑞宝中綬章

野田 斎氏（'62 法）
元香川県出納長

就任（内定含む）

井上正嗣氏（'71 理工）
宮津市長（再選）

中山 貢氏（'73 産社）
かがわ産業支援財団
理事長

山崎 隆氏（'78 経済）
カフムラサイクル
代表取締役社長

山岡祐子氏（'83 経済）
株式会社白川書院
代表取締役社長・編集長

訃報

西川富雄氏
（本学名誉教授、文学部校友会長）
7 月 7 日ご逝去。84 歳。

BOOKS

校友会へご惠贈下さいました本の中から
紹介させていただきます。

◆國友道治氏（'57 経済）著
『パッチワーク』短歌研究社＊2381 円＋税

◆水野健二氏（'72 理工）著
『体が硬い人のためのヨガ』PHP 研究所＊1300 円＋税

◆手島 仁氏（'83 文）著
『群馬学』＊非売品

◆西村 仁氏（'85 理工、'06 院経営）著
『図面の読み方がやさしくわかる本』
日本能率協会マネジメントセンター＊2000 円＋税

◆平野敦士氏（'86 経営、本学大学院経営管理研究科教授）著
『株式会社をつくり方と運営』成美堂出版＊1300 円＋税

◆横田尚哉氏（'87 理工）著
『問題解決のためのファンクショナル・アプローチ入門』
ディスカヴァー・トゥエンティワン＊1600 円＋税

◆風呂本武典氏（'90 経営）著
『フェリー航路は自動車道路』成山堂書店＊3400 円＋税

◆藤原緋沙子氏（'01 文）著
『藍染袴お魁帖 桜紅葉』双葉社＊600 円＋税

校友会ホームページの新コンテンツの紹介

1.外国語表記ページ

英語、中国語（簡体字）で表記されたページを新たに設置
しました。ホームページ上の各外国語のボタンをクリック
してください。

2.動画配信

社会で活躍する校友のメッセージを動画でお楽しみい
ただけます。

3.校友ショップ紹介ページ

校友が経営するお店を紹介するコーナーを設けました。

詳しくは立命館大学校友会ホームページをご覧ください。
<http://alumni.ritsumei.jp/>

お詫びと訂正

りつめい No. 241 の 13 ページの記事の最後に、石川県校友会の設立は 1975 年頃と記載し
ていますが、正しくは 1950 年頃の誤りでした。ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。

編集室から

大阪

の淀屋橋に「立命館大阪オフィス」があることは、校
友の皆さんは先刻ご承知のことでしょう。そのオフィ
スで催す『大阪オフィス講座』が、本年度で開催 1 2 周年にもなる
と聞き、講座開設に関わったものとして感慨深いものがあります。
本講座開設の主旨の一つに、大阪オフィスの一層の活性化のため
校友、および父母とのネットワークを強化することがあり、受講
生募集や講師招聘にあたり、校友会事務局や父母教育後援会のご
支援が欠かせないものでした。開催コマ数は 25 コマ（当初は
20 コマ）でしたが、そのうちの数コマは必ず校友の皆様にご登場
いただくということに。とりわけ、大阪弁護士会の皆様には大変お
世話になりました。

また、サントリー文化財団上席フェローの佐藤友美子さん（当
時はサントリー不易流行研究所部長）、『ふろしき研究会』代表の
森田知都子さん、アメリカンフットボール部前監督で当時ヘッド
コーチだった古橋由一郎さん等の OB・OG の皆様には、その主
旨に賛同いただきご講演を賜りました。現在、『りつめい』の編集
に関わるものとして、様々な分野で活躍されている OB・OG にど
んどん登場していただくよう頑張っていきたい。（YT）

雇用

環境の厳しさを反映し、大学生の就職率が大幅に
減少している。文部科学省が 8 月 6 日に発表した
今年度学校基本調査の速報によれば、学部卒業者の就職率は
60.8％で、前年度より 7.6 ポイント低下した。これは調査開始の
1948 年以来最大の下げ幅らしく、政府も 8 月 30 日に「新卒者雇
用に関する緊急対策」を発表した。首相直属の特命チームが作
成した資料を見ると、「来春の新規大学卒業者に対する民間企業
の求人総数は、前年比 19.8％のマイナスとなっており、(略)さら
に、円高・株安などの経済情勢の更なる悪化も相まって、来春の
就職内定率は、過去最悪となるおそれもある」との予測を示して
いる。

母校で学ぶ後輩たちも、就活が早期化、長期化している中で、
激化する競争を勝ち抜くために必至の努力をしていることと思う。
就活に関するある本によれば、人気企業の人事部長たちが口を
揃えて「マニュアル通りに面接に臨む人はいらない」と言い、彼ら
が求める根源的なところでの理想の人材像は、「人として信頼で
き、仲間としてやっていけるか」の一言に尽きるという。

私は、図らずも立命館大学父母教育後援会から郵便が届くこ
とになったのだが、保護者の一人としても、現役の皆さんには最
後まで頑張ってほしいと思う。そして、日本の経済が元気を取り
戻し、学生たちの雇用環境が好転することを切に願っている。

失敗

は成功のもと。失敗が成長に繋がるというけれど、
気がつけば失敗をしないように、無意識に逃げてい
ることがある。「今の状況から逃げられたらいいのに」「なるべく無
難に、やり過ごそう」。入社 5 年目、周囲から求められるものと、そ
れに追いつけない自分に、どこか投げやりになっていた。

大学時代の恩師とも言える方に、その話をした時のこと。心に
響く言葉が返ってきた。
「逃げたらあかん。同じエラーするなら、前に出てエラーしなさい。」その瞬間、心が一気に晴れた気がした。

シンプルに考えたらいい。逃げて、自分で複雑にして苦しんで
いただけなんだろうな。

そう気づかせてもらってから数ヶ月。真正面から向かっていつ
た結果の失敗は、逃げて失敗するより、ずっと気持ちは晴れやか
だった。季節はいよいよ、スポーツの秋。たくさんの力をもらった
大学時代を思い出す。もしまた逃げそうになったら、あの言葉を
思い出そう。

（pow）

海外

研修制度を日清食品株式会社が 2011 年度から導入
する。国内での実務実績を積み、一定の語学力を有
する入社 5 年目までの社員 10 名程度を毎年、海外の現地法人に
派遣し、2 年間経験を積ませるという。狙いは、海外市場での次世
代幹部候補育成で、「柔軟性や行動力がある若いうちに異文化を
理解する姿勢を身に付けることが大切」という考えでの取り組みだ。

幼少期に米国で育った私は、9 歳になって日本に帰国した。数々
のカルチャーショックを体験したが、「主張する」風土がないことは
なかなか受け入れることができなかった。日本人が海外の人に感
じるそれとは逆の現象である。当時通っていた米国の小学校では、
毎朝 15 分を使ってディベートゲームをしていた。2 つのグループ
に分かれて、決められたテーマに従い、主張や説得を繰り返しま
しながら賛同者を増やし、最終的に人数の多かったグループには、お
昼にお菓子が配られた。帰国後の学校でお菓子を食べないことに
異議を唱えて、先生を困らせたことは鮮明に記憶している。

学祖西園寺公望公が 100 年以上前に理想とした「世界の中の
日本」は今現実のものとなっている。日本企業の海外展開が加速
する一方で、今ある 17 の海外校友会以外の国・地域でも新たな
校友会の産声が聞こえ始めている。異文化を理解するためには、
「感じ取る」姿勢が肝要である。世界に広がるネットワークを手
に臆せず飛び出して多くのことを経験して欲しいと思う。

「Seeing is believing」、百聞は一見に如かずである。

（YOSHI）